

明日の暮らし、ささえあう

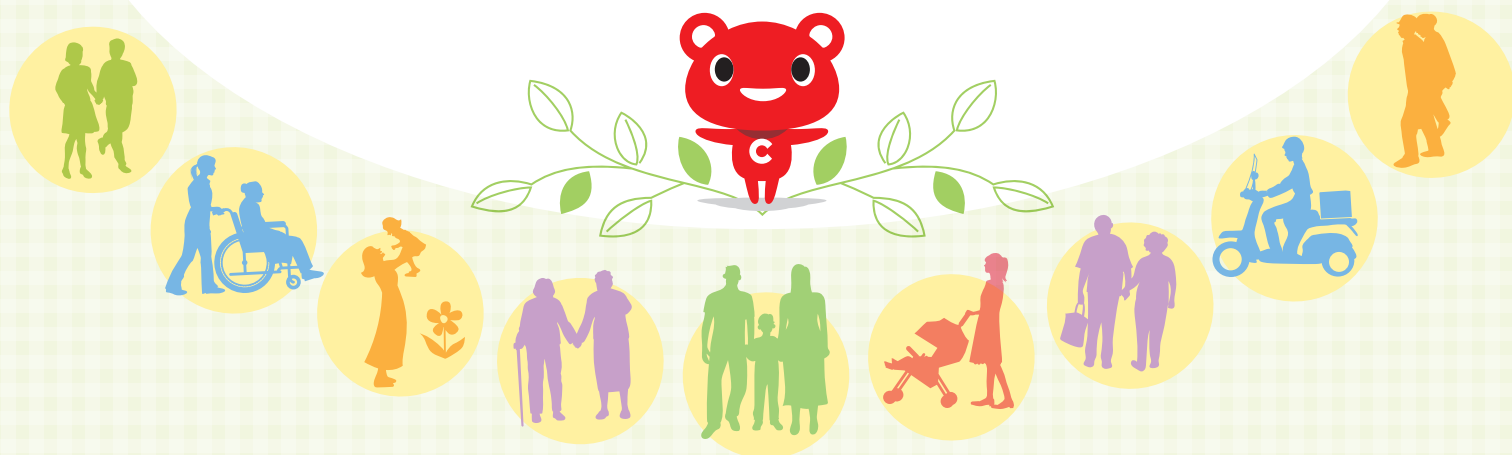
CO・OP 共済



地域ささえあい助成

— 生協と他団体が協同する活動を応援します —

2019年度 活動報告集



日本コープ共済生活協同組合連合会

はじめに

日本コープ共済生活協同組合連合会（以下、コープ共済連）では、社会貢献活動として2012年度に「CO・OP 共済 地域ささえあい助成」を開始し、2019年度に8年目を迎えました。

生協は、くらしを向上させることを目的に事業を進めていますが、昨今の少子高齢化や貧困などのくらしに関する困難は、地域社会全体に目を向け、他団体・行政とも一緒になって必要な取り組みを行わなければ解決できない状況になってきています。そのため、本助成では、生協と他団体がネットワークを形成しながら問題を解決していく活動を支援することにしており、あわせて、次の3つのテーマにそった取り組みを助成の対象としております。

①くらしを守り、くらしの困りごとの解決に資する。

②命を守り、その人らしい生き方ができるようにする。

③女性と子どもが生き生きする。

2019年度は58件のご応募をいただき、審査委員会において44件、2,461万2,153円の助成を決定しました。なお、選定にあたっては次の選考基準を設け審査を進めました。

選考基準

- ①生協と地域他団体との協同により成り立つ活動であること、②計画の実現性、③予算計画の妥当性、④対象者のニーズに基づく活動であること、⑤多様な地域住民の関わりや参加度、⑥活動の新規性や先駆性

※過去に助成を受けたことのある団体では、取り組みの発展性にも着目しました。

※協同の取り組みができていくかという点では、他団体と協同することで新たな広がりが期待できるか、または、生協がしっかり役割を発揮できているかを着眼点としました。

❖活動8年目を迎えて

本助成は2019年度で8年目を迎えました。応募団体においては、生協との協同関係が深い活動も多く、協同の輪の広がりを感じさせる新たな実践の申請もみられました。優れた実践が多くある中で、継続して助成を受けている団体や、活動資金の多くを本助成に頼った団体については、活動の自立を促していくため、また活動の発展性を踏まえて厳格に審査いたしました。上記の選考基準を参考に、次年度以降の応募でも、より発展的な活動が申請されることを期待します。

2019年度も、助成団体や生協、応募を検討している団体を対象に、団体交流会を開催しました。東京と岡山の2会場で52団体から計86名にご参加いただき、参加者からは「生協と協同する意味を改めて感じた」「それぞれの強みを活かし、弱さをカバーし合うことが出来る、ささえあい助成に感謝したい」「協同の力で、日本中で笑って暮らせることを目指したい」など、前向きな意見が数多く聞かれました。住環境が急激に変化する地域の中で、団体交流会から学び取った協同の力を生かし、住民の皆さんを巻き込んだコミュニティの再構築を実践されることを期待します。

❖さらなる発展を目指して

年初より新型コロナウイルスが世界中で感染拡大し、WHOがパンデミックを宣言しました。亡くなられた方々のご冥福をお祈りしますとともに、罹患された方々におかれましては、一日でも早いご回復をお祈りしております。また、外出の自粛、休校といった不便な暮らしなど、ご苦勞をされている皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

2021年には、本助成制度の開始から10年目となる節目の年を迎えます。今日求められる地域共生社会づくりの活動は刻一刻と変化しており、社会的ニーズの変化にあわせて、社会貢献のあり方も見直す時期がきていると感じます。大変な時こそ、「助け合い」を理念とする生協・協同組合の出番です。地域の団体同士が一層連携して人々に寄り添いこの状況を乗り越えていくこと、また、コープ共済連の社会貢献活動が、地域に根差した活動を促進する大きな一助としてさらなる発展を遂げることを期待しています。引き続き、皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

2019年度 CO・OP共済 地域ささえあい助成 審査委員会

委員長 上野谷 加代子（同志社大学 社会学部 名誉教授）

はじめに	1
------------	---

2019年度 CO・OP共済 地域ささえあい助成 審査委員会
委員長 上野谷 加代子(同志社大学 社会学部 名誉教授)

2019年度「CO・OP共済 地域ささえあい助成」助成先一覧	4
--------------------------------------	---

活動報告集



1 テーマ 暮らしを守り、暮らしの困りごとの解決に資する

■「いいさよ～山梨」 地域有償助け合い活動「いいさよ～山梨」	7
■「さろん de 志氏我野」運営委員会 子どもと高齢者のサポート、安らぎ・寛ぎの場提供	8
■フードバンクさが 佐賀県で最初のフードバンク（フードバンクさが）の設立	9
■NPO法人 陽だまりの家 IT活用と研修で三層生活支援コーディネーターと生活支援ボランティアを支える	10
■一般社団法人 WハートK&M 地域交流ひろばの運営	11
■おたがいさま水戸 ボランティアによる生活支援活動	12
■生活協同組合おおさかパルコープ 暮らしネット福祉 視聴覚障がい者と健常者が気軽な声掛けから共に行動できる地域づくり	13
■生活協同組合おおさかパルコープ 鶴見福祉センター運営委員会 鶴見福祉センターと地域住民の絆でつなぐたまり場作り	14
■生活協同組合とくしま生協 福島の子どもの保養プロジェクト	15
■認定NPO法人 ぽっかぽかランナース 対面式買い物カートの改善及び展開事業	16
■フードバンクしまね「あったか元気便」 学校給食のない時期に食と福祉情報を届ける「あったか元気便」	17
■フードバンク奈良 フードバンク活動	18
■ボランティア団体「ハートハース」 安心をはぐくむ居場所づくり	19
■奄美医療生活協同組合 鹿児島県での相互扶助理念にもとづく「生活支援活動」支援プロジェクト	20
■公益社団法人 フードバンクかながわ 「もったいない」を「分かち合い」～「ありがとう」へ	21
■社会福祉法人 いぶき福祉会 新しい協働ステーションにおけるコミュニティガーデンづくり	22
■神戸市職員有志 学習支援	23
■生活協同組合 おかやまコープ 平成30年西日本豪雨被災地支援活動 ～社協との連携を軸とした他団体との協同～	24
■東京ほくと医療生活協同組合 なんでも相談会	25
■特定非営利活動法人 キッズドア みらい塾	26
■杷木復興支援ベース 被災地域での、地域復興支援ならびに地域活性化活動	27

2

命を守り、その人らしい生き方ができるようにする

■ 一般社団法人 ウェルフェア 男の料理教室・認知症予防教室（料理）	29
■ 一般社団法人 やまなし空と風-Discovery Of Life ほくとProof of Lifeプロジェクト（人それぞれの生きる証をみつける活動）	30
■ 生活協同組合 パルシステム千葉 元気な高齢者が軸となる、パルシステム千葉多世代交流サロンでの地域コミュニティづくり	31
■ 津山アルツハイマーデー実行委員会 津山 世界アルツハイマーデー認知症理解・啓発活動	32
■ 東京保健生活協同組合 地域の医療保健の駆け込み寺	33
■ 特定非営利活動法人 月と風と フクフクサイクルプロジェクト	34
■ 特定非営利活動法人 ほっとプラス 生活保護受給者を対象とした住まいの支援及び定期的な健康相談会の実施	35
■ 富山県生活協同組合連合会 福島の子ども保養プロジェクト in とやま2019	36
■ フードバンクちば いのちをつなごう～フードバンクちば・県内生協連携キャンペーン	37
■ 松戸市の地域活動を推進する会 住民主体の「通いの場」を活性化し、高齢者の地域活動を応援	38
■ 特定非営利活動法人 あなただけの乳がんではなく 乳がん啓発・ピンクリボンセミナー、乳がん検診受診推進	39

3

女性と子どもが生き生きする

■ NPO法人 福島SAND-STORY 福島県の子どもの健康づくりのための親子屋外遊びと家庭生活改善プロジェクト	41
■ NPO法人 みやっこサポート 食で子ども達を守り、地域の未来を守るプロジェクト！	42
■ あくらす あくらす	43
■ 子育て交流のひろば ほっぺ この子を産んでよかったと思えるように	44
■ こども食堂北海道ネットワーク 子ども食堂 道内ネットワークの構築	45
■ 常総生活協同組合 ゴンタの丘プレイパーク	46
■ 特定非営利活動法人 熊本県子ども劇場連絡会 みんなで学ぼうみんなであそぼう！～“あそび心”が地域をつなぎ仲間をつくる～	47
■ 特定非営利活動法人 パープルネットさいたま みんながDV被害者サポーター ～つながる居場所～	48
■ 福井県民生活協同組合（ハーツきっず学園） 木育活動を通して子どもの発達を促し、親子のコミュニケーションを促進する	49
■ 生活協同組合 コープ自然派奈良 きゅうしょくカンガループロジェクト（給食を考えるプロジェクト）	50
■ 特定非営利活動法人 ISC糸島スポーツクラブ コミュニティカフェ寄り合い処プロジェクトST-3	51
■ 特定非営利活動法人 生涯学習サポート兵庫 つながる「居場所」のつくり方	52

2019年度「CO・OP共済 地域ささえあい助成」団体交流会 開催報告	54
-------------------------------------	----

2019年度 CO・OP共済 地域ささえあい助成 助成先一覧

※助成先および協同団体は2019年度活動当時の名称です。

1 暮らしを守り、暮らしの困りごとの解決に資する

■「いいさよ〜山梨」

《協同団体》

- 生活協同組合パルシステム山梨
- フルーツ山梨農業協同組合
- ワーカーズコープ東京 三多摩山梨事業本部

■「^{しでがの}さろん de 志氏我野」運営委員会

《協同団体》

- 生活協同組合コープみえ 四日市センター
- 羽津在宅介護支援センター
- 四日市羽津医療センター

■フードバンクさが

《協同団体》

- コープさが生活協同組合
- 佐賀県労働者福祉協議会 ●フードバンクくるめ

■NPO法人 陽だまりの家

《協同団体》

- 北海道生活協同組合連合会
- Father Computer
- 恵庭市社会福祉士の会

■一般社団法人 WハートK & M

《協同団体》

- 生活協同組合エフコープ 京築支所
- 行橋市男女共同参画センター る〜ぷる

■おたがいさま水戸

《協同団体》

- NPO法人セカンドリーグ
- NPO法人ナルク水戸 ●水戸市社会福祉協議会

■生活協同組合おおさかパルコープ 暮らしネット福祉

《協同団体》

- 日本歩行訓練士会 ●手話同好会「あすなる」

■生活協同組合おおさかパルコープ 鶴見福祉センター運営委員会

《協同団体》

- 榎本地域活動協議会13町会
- 生活協同組合ヘルスコープおおさか

■生活協同組合とくしま生協

《協同団体》

- 福島県生活協同組合連合会
- フードバンクとくしま ●徳島健康生活協同組合
- 公益財団法人 徳島県勤労者福祉ネットワーク

■認定NPO法人 ぽっかぽかランナース

《協同団体》

- 生活協同組合コープこうべ ●株式会社スーパーメイト

■フードバンクしまね「あったか元気便」

《協同団体》

- 松江保健生活協同組合 ●松江市立古志原公民館
- 島根県農業協同組合(本店) ●生活協同組合しまね
- 島根県農業協同組合(くにびき地区本部)
- グリーンコープ生活協同組合島根
- 島根県労働者福祉協議会 ●地域つながりセンター

■フードバンク奈良

《協同団体》

- 奈良県生活協同組合連合会
- 市民生活協同組合ならコープ

■ボランティア団体「ハートハース」

《協同団体》

- 奈良市社会福祉協議会
- 市民生活協同組合ならコープ
- 帝塚山大学心のケアセンター

■奄美医療生活協同組合

《協同団体》

- 奄美市社会福祉協議会 ●瀬戸内町社会福祉協議会
- 奄美市地域包括支援センター
- 龍郷町地域包括支援センター
- 大和村地域包括支援センター
- 宇検村地域包括支援センター
- JAあまみ大島事業本部女性部
- NPO法人 鹿児島県介護支援専門員協議会
- 奄美大島・喜界島支部
- 生活協同組合コープかごしま ●奄美医療生活協同組合
- 鹿児島県生活協同組合連合会 ●鹿児島県
- 鹿児島県社会福祉協議会 ●鹿児島純心女子大学

■公益社団法人 フードバンクかながわ

《協同団体》

- 神奈川県労働者福祉協議会
- かながわ勤労者ボランティアネットワーク
- 神奈川県労働者共済生活協同組合
- 中央労働金庫神奈川県本部
- 公益財団法人横浜YMCA ●生活協同組合ユーコープ
- 公益財団法人かながわ生き生き市民基金
- 特定非営利活動法人参加型システム研究所
- 神奈川県農業協同組合中央会
- 神奈川県生活協同組合連合会
- 生活協同組合パルシステム神奈川 ゆめコープ
- 生活クラブ生活協同組合(神奈川)

■ 社会福祉法人 いぶき福祉会

《協同団体》

- 社会福祉法人いぶき福祉会 ●生活協同組合コープぎふ

■ 神戸市職員有志

《協同団体》

- 生活協同組合コープこうべ ●神戸市
- 神戸市社会福祉協議会 ●learning for all
- 東京大学先端科学技術研究センター
- 神戸学習支援協議会 ESD推進ネットひょうご
- 無料塾シンポジウム 全国大会

■ 生活協同組合 おかやまコープ

《協同団体》

- 倉敷市社会福祉協議会
- 倉敷市緑化協会・いのりんジャパン
- 真備町写真洗浄@あらいぐま岡山

■ 東京ほくと医療生活協同組合

《協同団体》

- 北区労働組合連合会 ●東京土建一般労働組合北支部
- 北区生活と健康を守る会

■ 特定非営利活動法人 キッズドア

《協同団体》

- 生活協同組合コープみらい ●フェローオーケストラ
- 子どもほっとネット in なかの

■ 杷木復興支援ベース

《協同団体》

- エフコープ生活協同組合 ●朝倉市社会福祉協議会
- 朝倉市ふるさと課

(21団体) 12,011,555円

2

命を守り、その人らしい生き方ができるようにする

■ 一般社団法人 ウェルフェア

《協同団体》

- 生活協同組合コープみらい
- 松戸市明第2西地域包括支援センター
- 松戸市馬橋地域包括支援センター

■ 一般社団法人 やまなし空と風-Discovery Of Life

《協同団体》

- 生活協同組合ユーコープ やまなし県本部
- 一般社団法人国際未来学校 ●医療法人社団家族の森

■ 生活協同組合パルシステム千葉

《協同団体》

- 習志野市東習志野高齢者相談センター
- ワーカーズコープちば
- 社会福祉法人八千代美香会 ●ブレーメン習志野

■ 津山アルツハイマーデー実行委員会

《協同団体》

- おかやまコープ美作エリア
- 津山市民生児童委員連合協議会 ●津山信用金庫
- 津山市認知症の人と家族の会 ●臼井茶屋
- 加茂タクシー ●みまさか認知症疾患医療センター
- 日本認知症グループホーム協会
- 認知症対応型通所介護事業所
- 認知症キャラバン・メイト ●津山市社会福祉協議会
- 美作大学生活科学部 社会福祉学科
- 津山市社会福祉協議会 津山市地域包括支援センター

■ 東京保健生活協同組合

《協同団体》

- 文京区社会福祉協議会 ●氷川下町会
- 文京サポート家族会 ●株式会社エーザイ
- 高齢者あんしん相談センター
- NPO法人カーレットジャパン
- The Trading City研究所

■ 特定非営利活動法人 月と風と

《協同団体》

- 生活協同組合コープこうべ
- NPO法人 FREE HELP ●NPO法人 co.to-hana

■ 特定非営利活動法人 ほっとプラス

《協同団体》

- 医療生協さいたま生活協同組合
- 反貧困ネットワーク埼玉

■ 富山県生活協同組合連合会

《協同団体》

- あさひふるさと体験推進協議会
- グリーンツーリズムとやま

■ フードバンクちば

《協同団体》

- 生活クラブ生活協同組合(千葉)
- なのはな生活協同組合
- 生活協同組合パルシステム千葉
- 生活協同組合コープみらい
- 千葉県生活協同組合連合会

■ 松戸市の地域活動を推進する会

《協同団体》

- 生活協同組合コープみらい 千葉県本部

■ 特定非営利活動法人 あなただけの乳がんではなく

《協同団体》

- 生活協同組合コープかごしま
- 社会医療法人博愛会相良病院

(11団体) 5,601,610円

3 女性と子どもが生き生きする

■ NPO法人 福島SAND-STORY

《協同団体》

- 生活協同組合コープふくしま ●福島市こども政策課
- NPO法人いわき鳴き砂を守る会

■ NPO法人 みやっこサポート

《協同団体》

- 生活協同組合コープこうべ 第2地区活動本部
- 協同購入センター西宮
- 労協センター事業団 西宮事業所

■ あくらす

《協同団体》

- 生活協同組合コープこうべ 安倉店
- コミュニティ安倉 ●宝塚市社会福祉協議会

■ 子育て交流のひろば ほっぺ

《協同団体》

- 生活協同組合コープこうべ第4地区
- 青山まちづくり協議会 ●三木市内の中学校・高校

■ こども食堂北海道ネットワーク

《協同団体》

- 北海道生活協同組合連合会
- 北海道農業協同組合中央会
- こくみん共済coop北海道推進本部
- 北海道労働金庫営業推進部 ●北海道保健福祉部
- 生活協同組合コープさっぽろ
- 札幌市子ども未来局・札幌市社協

■ 常総生活協同組合

《協同団体》

- 常総生活協同組合 ●つくば遊ぼう広場の会

■ 特定非営利活動法人 熊本県子ども劇場連絡会

《協同団体》

- グリーンコープ生活協同組合くまもと
- 親と子を元気にする放課後クラブおかえり!
- うきっ子・たのしい!会

■ 特定非営利活動法人 パープルネットさいたま

《協同団体》

- 生活協同組合パルシステム埼玉

■ 福井県民生活協同組合(ハーツきっず学園)

《協同団体》

- モックイック ●ときなる ●おもちゃハウス

■ 生活協同組合 コープ自然派奈良

《協同団体》

- 農民運動奈良県連絡会 ●橿原の学校給食を考える会
- 奈良市の給食のおはなし

■ 特定非営利活動法人 ISC糸島スポーツクラブ

《協同団体》

- ISC糸島スポーツクラブ
- グリーンコープ生活協同組合ふくおか いとしま店
- コミュニティカフェ&デリことこと

■ 特定非営利活動法人 生涯学習サポート兵庫

《協同団体》

- 生活協同組合コープこうべ 第7地区活動本部
- 社会福祉法人姫路社会福祉協議会

(12団体) 6,998,988円

※一部、申請金額より減額により助成とする。

総合計(44団体/応募:58団体):24,612,153円

1

テーマ



**くらしを守り、
くらしの困りごとの
解決に資する**



「いいさよ～山梨」

活動名 | 地域有償助け合い活動「いいさよ～山梨」

活動のきっかけ

「JAは地域農業継続のための援農者をどう確保するか、さらにJAに加えて生協も高齢者や子育て世代の困りごとをどう解決するか、W.coにあっては持続可能な地域づくりと新たな仕事起しをどうすすめるかなど、各組織が抱えている課題の情報共有化をはかった結果、各組織の課題解決を目指す取り組みを検討することとなった。

活動内容概要

普段の暮らしや地域農業の困りごとを、地域住民の相互扶助で解決することを目指す活動を展開する。

活動の仕組みは困りごとの解決を求める「依頼者」と、その解決に協力する「応援者」を、3つの協同組合が共同で設立するコーディネート組織（＝「いいさよ～山梨」）が繋ぐもの。地域の課題を応援者が解決に協力し、また、ある時はその応援者の困りごとを他の応援者が解決を目指すという、暮らしやすい地域づくりに向けた地域住民どうしの「おたがいさま」活動を構築する。

はたらく+たすけあい
「いいさよ～山梨」
活動開始のお知らせ 11月1日（月）～12月31日（日）
応援者大募集！

「いいさよ～山梨」は、JAフルーツ山梨、生協パルシステム山梨、ワーカーズコープが連携して運営する、地域住民が互いに助け合い、暮らしやすい地域づくりを目指す活動です。

活動の仕組みは、依頼者と応援者のつながりです。依頼者は困りごとを依頼し、応援者はその解決に協力します。また、ある時はその応援者の困りごとを他の応援者が解決を目指すという、暮らしやすい地域づくりに向けた地域住民どうしの「おたがいさま」活動を構築する。

活動の範囲は、山梨県内全域です。依頼者と応援者のつながりを通じて、地域課題の解決を目指します。

活動の開始は、令和元年11月1日（月）～12月31日（日）までです。応援者大募集！を呼びかけています。

活動の申し込みは、JAフルーツ山梨、生協パルシステム山梨、ワーカーズコープのいずれかから行うことができます。

活動の問い合わせ先は、JAフルーツ山梨、生協パルシステム山梨、ワーカーズコープのいずれかから行うことができます。

活動の問い合わせ先は、JAフルーツ山梨、生協パルシステム山梨、ワーカーズコープのいずれかから行うことができます。

「いいさよ～山梨」のしくみ

依頼者（困りごとを依頼する方）と応援者（解決に協力する方）のつながりを通じて、地域課題の解決を目指します。

活動の範囲は、山梨県内全域です。依頼者と応援者のつながりを通じて、地域課題の解決を目指します。

活動の申し込みは、JAフルーツ山梨、生協パルシステム山梨、ワーカーズコープのいずれかから行うことができます。

活動の問い合わせ先は、JAフルーツ山梨、生協パルシステム山梨、ワーカーズコープのいずれかから行うことができます。

活動の問い合わせ先は、JAフルーツ山梨、生協パルシステム山梨、ワーカーズコープのいずれかから行うことができます。

「いいさよ～山梨」活動の仕組み

依頼者（困りごとを依頼する方）と応援者（解決に協力する方）のつながりを通じて、地域課題の解決を目指します。

活動の範囲は、山梨県内全域です。依頼者と応援者のつながりを通じて、地域課題の解決を目指します。

活動の申し込みは、JAフルーツ山梨、生協パルシステム山梨、ワーカーズコープのいずれかから行うことができます。

活動の問い合わせ先は、JAフルーツ山梨、生協パルシステム山梨、ワーカーズコープのいずれかから行うことができます。

活動の問い合わせ先は、JAフルーツ山梨、生協パルシステム山梨、ワーカーズコープのいずれかから行うことができます。

協同した団体

- 生活協同組合パルシステム山梨（「生協」）
- フルーツ山梨農業協同組合（「JA」）
- ワーカーズコープ東京
三多摩山梨事業本部（「W.co」）

他団体と協同することで発見したこと

単独の協同組合ではできないことが、3つの協同組合が協力し、お互いの経験とノウハウ等を共有化し機能補完しあうことで実現できることを確信した。

また、3つの組織が「地域に協同組合を根付かせる」ことの重要性が一致した。

活動において生協が担った具体的な役割

生協が先行して実施してきた「生協組合員どうしの助け合い活動」（「くらしサポート事業」）の経験とノウハウが大いに役立った。また、生活支援をおこなう応援者を対象とした研修ノウハウ・教材もそのまま活用することができた。さらに、生協組合員には農とのふれあいや地域の農業支援に関心のある方が多く、こうした組合員が地域農業の応援者として協力いただけることとなっている。

成果として評価できる点

2020年1月1日からの活動で3月23日現在の応援者登録・利用者申込状況は、応援会員（予定者を含む）：13名、利用申し込み：8名（農業支援申込）となっている。実際の応援希望時期は2020年4月以降だが、新型コロナウイルス感染防止対策との関連で開始時期は未定。

なお、上記実績はまだ、不十分な状況と認識している。この背景として「いいさよ～山梨」の地域での認知度が低いことが要因と思われる。この認知度を向上させるため、2020年3月4日にはJA・生協・W.co・「いいさよ～山梨」共催で、マスコミ関係者を集めて「『いいさよ～山梨』活動の展開にかかる協同組合連携協定書調印式」を計画したが、新型コロナウイルス感染防止対策のため開催を延期した。この調印式は本年4月以降に改めて開催し、認知度向上に努めたい。

「^{し で が の}さろん de 志氏我野」運営委員会

活動名 | 子どもと高齢者のサポート、安らぎ・寛ぎの場提供

活動のきっかけ

2015年に、羽津地区内にコープみえ四日市センターがオープンしたことから、地区として協同の可能性を模索してきた。そうした時に、CO・OP共済地域ささえあい助成制度の存在を知り、コープみえに協同の打診をしたところ、コープみえ側でも地域との連携を考え始めていたタイミングだったことから協議を進め、協同実現の運びとなった。

協同した団体

- 生活協同組合コープみえ 四日市センター
- 羽津在宅介護支援センター
- 四日市羽津医療センター

活動内容概要

子ども・高齢者を主対象とした安らぎ・寛ぎの場の提供を目指した活動を展開。

・カフェサロン

現代版井戸端会議の場を提供。30～50名/回参加。

・介護予防プログラム（地域包括ケアの住民主体サービスに認定）

介護予防体操や手遊び、健康講座、健康相談など。10名/回参加。

・遊ぼう会

未就学児とその親が対象。子どもを遊ばせながら親同士の交流・親睦をはかる。5～10組/回参加。

・寺子屋

小中学生を対象とした学習支援。10～15名/回参加。

・子ども食堂

子ども(中学生以下。保護者同伴可)を対象とし安全・安心な食事を提供(80～120食/回)。

・高齢者食堂

一人暮らしの高齢者を主対象とし安全・安心な食事を提供。30名/回参加。

・妊産婦・乳幼児サポート講座

ベビーマッサージ、マタニティヨガ、親子ヨガ、親子バランスボール、バレトンの5教室を各々毎月1回開催。



他団体と協同することで発見したこと

自団体のみでは実現が難しいことでも、いろいろな団体の協力を得ることで、各団体が持つリソースを活用し比較的短期間で容易に実現できることが実体験として分かった。

他団体と協同するには、お互いの思惑が一致しないと難しいのでタイミングが重要なことも分かった。しかし、これは思い通りになるものでもないので仕掛けても外れることもあり得る。ただ、二番煎じ、三番煎じでは実現の可能性は大きく減じてしまうので、先駆的な取り組みが不可欠であることを認識した。

活動において生協が担った具体的な役割

コープみえは高齢者食堂のメニューを考案し、コープが扱っている調理済み食材などを有償で提供するとともに、スタッフを派遣するなど人的な支援も行っている。それに合わせて利用者にアンケートや対話により、困りごとなどの要望を聴き、協同したサービス提供を模索している。

高齢者食堂以外でも、離乳食講座を開催するなど、地域住民のニーズとマッチする企画を打ち出しつつ、コープ商品の拡販や組合員増につなげることを企図している。

成果として評価できる点

諸事業の参加者は、参加することによって交流の輪が広がる。一人では続かない介護予防もみんなと一緒にやることで楽しく継続的に取り組める。孤食を余儀なくされていた一人暮らしの高齢者や、ひとり親家庭の子どもたちに温かい食事の場を提供できる。寺子屋の子どもたちも集中して学習に取り組めるようになる。

高齢者食堂については、毎回30名に制限しているが、月2回開催になって新規の参加者も10名ほどある(12月時点)。毎週開催の要望も出ている。

フードバンクさが

活動名 | 佐賀県で最初のフードバンク（フードバンクさが）の設立

活動のきっかけ

食品ロスの削減とそれを有効活用できる循環型社会をめざして、佐賀で最初のフードバンクを作りたいと「Greeting Fromさが」が声を上げ、それぞれの活動の中でフードバンクの必要性を感じていた生協、子ども食堂、生活自立支援団体などのメンバーや個人が賛同し、フードバンクさが設立準備会をたちあげ、学習会や他地域フードバンク視察を経て、フードバンクさがを設立した。

協同した団体

- コープさが生活協同組合
- 佐賀県労働者福祉協議会
- フードバンクくるめ

活動内容概要

- ・2019年3月設立総会開催、佐賀市内に事務所・倉庫を構え、活動の手引きなどを作成し、7月フードバンク事業スタート。
- ・食品ロス削減啓発活動として、夏休み学習会「食品ロスとフードバンクのしくみを学ぼう」を開催、佐賀市主催のさが環境フェスティバルに出展。
- ・企業が安心してフードバンクに食品を寄贈できるよう、無事故・苦情件数ゼロをめざし、子ども食堂・地域サロン向けの食品衛生学習会を2会場で実施。
- ・8月から毎月第1土曜日に生協店舗でフードドライブを実施。
- ・地域との連携をすすめるため、事務所の一部を使ったコミュニティスペースの貸出など。



他団体と協同することで発見したこと

生協、労福協、他地域のフードバンクと協同することで、各自の強みを生かすことができ、お互いの足りないところを補い合うことで、活動の輪が広がった。各団体の多様な視点を持って活動を進めることができるのは、フードバンクさがにとって大きな力になると実感した。

活動において生協が担った具体的な役割

- フードバンク設立準備会に役職員5名、フードバンクさが運営メンバーとして2名が参加。
- フードバンクさが、生協共催で店舗での月1回のフードドライブを実施。
- 子ども食堂・地域サロン向け食品衛生学習会で、生協職員が品質管理のプロとして講師を務めた。
- 機関誌等での食品ロス削減とフードバンクの普及啓発活動。
- 支所の倉庫、冷蔵庫の一部を保管場所として提供。
- 大量の食品の引き取りのためのトラックと人材の協力。
- 夏の豪雨災害で支所が被災し配達できなかった食品や雑貨の寄贈。

成果として評価できる点

- 企業・団体、米生産者など14団体からの食品寄贈は約5.1トン、フードドライブや個人寄贈が約150kgと、合計約5.2トンの食品の寄贈を受けることができた。
- 県が主催する「子どもの居場所交流会」などに参加、情報収集を行い、子ども食堂、地域コミュニティ、社会福祉協議会、生活自立支援団体など41団体（合意書をかわしたのは32団体）に災害支援として、約3.5トン提供することができた。
- フードバンクさが主催夏休み学習会「食品ロスとフードバンクのしくみを学ぼう」（参加者 子どもを含む15名）で家庭でできる食品ロス削減の啓発活動を行った。
- 佐賀市主催さが環境フェスティバルに出展し、ブース来訪者約250名に対し、展示と説明により食品ロス、フードバンクやフードドライブについての普及啓発を行った。
- 子ども食堂・地域サロン向けの食品衛生学習会を2会場で行った。42名の参加者に、食品管理や手洗い等の衛生管理などについて啓発を行うことができた。
- 佐賀県県民環境部、佐賀県健康福祉部障害福祉課や佐賀市環境部循環型社会推進課3R係、佐賀市保健福祉部福祉総務課とつながり、意見交換会を実施することができた。

NPO法人 陽だまりの家

活動名 | IT活用と研修で三層生活支援コーディネーターと生活支援ボランティアを支える

活動のきっかけ

NPO法人陽だまりの家は、制度サービスの谷間に存在する地域の高齢者・子ども・働いていない若者・他の様々な困りごとの解決を目指して活動している。最近、介護関係の話の中で、「ヘルパーへのセクハラやパワハラがあり、生活支援が難しい」との話題が出ていた。さらに高齢社会に向けて、地域住民同士の助け合いが必要になるが、他人の目が届かない自宅の中での活動への不安もあった。「密室への対策」として、テレビ電話の活用を考え、生活支援ボランティアの活動記録をとり困ったときにすぐ対応できるようにすること、テレビカメラでつながっていることでセクハラやパワハラ等への抑止力になることを期待している。

協同した団体

- 北海道生活協同組合連合会
- Father Computer
- 恵庭市社会福祉士の会



活動内容概要

三層生活支援コーディネーターの役割を果たすべく、市営住宅訪問や広報活動を行い、当法人が身近な存在であることの周知を行った。徐々に認知度が上がり、住民からの相談や依頼が入るようになってきている。

ボランティア募集に対しては、高齢者の参加はなく、高齢者自身から「知っている人には頼みづらい」との意識があることがわかった。働いていない若者数名が参加し、中には「就労先でいじめられて、働きたいけど怖い」と言っていた方や、「家族以外の人と関係を取る練習をしたい」と話す方もいた。

生活支援ボランティアの参加には、事前の研修を行った。また、「陽だまりお助け隊」のロゴが入ったジャンパーやバッグを持つことで、本人の自覚と周囲からの認知度を上げる効果に結び付いた。生活支援ボランティアは、庭の草刈りや引っ越しに伴う粗大ゴミ出しの手伝い、除雪等を行った。また、市営住宅移転に伴う引っ越し等の相談も受けた。

テレビ電話の活用は、Wi-Fi環境が整備できず、当初は個人所有のポケットWi-Fiを使用してテストしたが、速度と安定性に欠ける面があり中断していた。2月に固定のWi-Fiを新規に開設し、安定性を向上させた。今後移動式Wi-Fiも整備し、テレビ電話の活用を行えるように整備を進める。



他団体と協同することで発見したこと

恵庭市社会福祉士の会は、恵庭市内の福祉・介護・医療・保育・行政等に勤務している社会福祉士で構成されており、現在の恵庭市内の最新情報と住民の福祉サービスの谷間での困りごと等の情報を収集することができた。

研修内容についてのアドバイスを得ることができた。

活動において生協が担った具体的な役割

道生協連の会議に参加し、情報提供と助言を受けることができた。

成果として評価できる点

生活支援ボランティアの相談や依頼は13件あり、実際に生活支援ボランティア活動を行ったのは、8件だった。ボランティアの応募は、高齢者は数人の方から相談があったが、応募にはつながらなかった。働いていない若者は、8人から相談があり、実際に参加したのは5人だった。

研修会としての開催は2回で、参加者は3名だった。他のボランティア活動参加者は、テキストをもとに個別に研修を行った。

本人や家族から相談が持ち込まれると同時に、恵庭市保健センターや障がい者相談支援センターからの相談も来るようになり、当法人の活動への理解の広がりも見られた。

一般社団法人 WハートK&M

活動名 | 地域交流ひろばの運営

活動のきっかけ

子育て真っ最中の8人だからこそわかる子育て世代がもっと気軽に集える場所、学びやリフレッシュ、安心して過ごせる空間があったらいいなという想いから。

活動内容概要

- ・大人も子どもも気軽に安心して集える場所の提供
- ・自分の持っているスキルを活かせる場の提供
- ・地域の方が誰でも参加できる講座の開催(多世代交流に繋がり、リフレッシュ・スキルアップできる場所の提供)
- ・外部でのマルシェの開催
- ・子どもに様々な体験の場の提供、キッズスマイルフェスの開催

協同した団体

- 生活協同組合エフコープ 京築支所
- 行橋市男女共同参画センター る〜ぷる



他団体と協同することで発見したこと

- 毎月の講座カレンダーを配布してもらうことで、多くの幅広い年代に情報発信することができた。
- マルシェやキッズスマイルフェスでは、エフコープ商品試食や、糖度実験など様々な情報、学びを提供していただけた。
- 他団体との繋がりで多くの協力を得られ、より楽しいイベントとなった。

活動において生協が担った具体的な役割

- 広報活動(毎月開催される講座の案内をホームページで紹介や、カタログと一緒に配布)
- マルシェ開催時には、試食ブースや糖度実験コーナーの設置
- 11月24日マルシェ アップルファームのしいたけ詰め放題実施の協力

成果として評価できる点

【キッズスマイルフェス】

来場者数約800名。苅田・行橋の京築地域の保育園・幼稚園・小学校にチラシの配布のおかげで、多くの親子に会場していただき、大変賑わった。子どものモノづくり体験の需要を大いに感じた。地域のボランティア団体や高校生の協力のおかげで、幅広い年代の交流ができた。

【地域交流の場】

育休取得中の方が多く、仕事復帰を控えている方の参加が多くみられた。育休中の子どもの過ごす時間と、自分の時間を大事にしたいと思う方が多く、利用としては短期的。その中でリフレッシュや学びを多く求めている傾向にある。又、子育てがひと段落した方は、継続的にリフレッシュや学びの場に参加してくれている。

おたがいさま水戸

活動名 | ボランティアによる生活支援活動

活動のきっかけ

水戸市の地域包括ケアシステムの一翼を担う「生活支援」を行う任意団体（有償ボランティア組織）として、茨城県内の3生協とNPOが協力して2018年7月に設立。地域が協力して行う新しい助け合いの組織として水戸市社会福祉協議会も運営に参加。2019年は看護師によるボランティア団体「キャンパス水戸」とも連携。

協同した団体

- NPO法人セカンドリーグ
- NPO法人ナルク水戸
- 水戸市社会福祉協議会

活動内容概要

独立した運営を行う有償ボランティア組織とし、運営資金はいばらきコープとパルシステム茨城が助成する。事務所は茨城保健生協内に置き、広報や会員の募集はNPOを含めた各生協で行う。

【対象】

- ・地域住民（生協組合員を問わず）

【活動内容】

- ・家事応援 買い物、掃除、洗濯、食事づくり、縫い物 他
 - ・介助応援 外出、通院、買い物同行、話し相手、ゴミ出し 他
 - ・育児応援 乳幼児・子どもの世話、保育園の送り迎え、託児、産前産後手伝い 他
 - ・その他 草取り、薬取り、電球交換 他
- 利用料1000円（応援料800円、運営費200円）交通費実費負担
月～金曜日 9:00～17:00



他団体と協同することで発見したこと

- 担い手不足（ボランティア不足）の中、各団体それぞれのルートで呼びかけ、サポーター（ボランティア）の登録人数は75名になった（目標は100名）。
- それぞれの団体の活動経験からアドバイスしあうことができるようになった。

活動において生協が担った具体的な役割

3生協の事務局が毎月1回「事務局会議」を実施。運営や活動内容について話し合っている。会議の内容は四半期に一度の役員会に報告し、会則や規則の変更につなげている。

成果として評価できる点

活動時間：前年末336.75時間→2020年1月現在988時間
活動件数：前年末191件→2020年1月現在728件
利用者：前年末51名→2020年1月90名
サポーター登録：前年末50名→2020年1月75名

生活協同組合おおさかパルコープ くらしネット福祉

活動名 | 視聴覚障がい者と健常者が気軽な声掛けから共に行動できる地域づくり

活動のきっかけ

視聴覚障がい者と健常者が共に様々な活動に参加が出来ることを基本にした活動を目指している。

ガイドヘルプや手話の手法をレベルアップさせ、「支えあう」「助け合う」活動へと繋ぎ、地域で気軽に声掛けの出来る人を増やすことを願った。また、障がい者も自ら発信や参加への前進を考えた。

協同した団体

- 日本歩行訓練士会
- 手話同好会「あすなろ」

活動内容概要

- ・連続(5回)ガイドヘルプ手話学習、講習会の実施。
- ・ガイドヘルプでは、基本を重視し実践的な内容で開催(買い物同行・電車昇降)。視覚障がい者の協力で、学んだ事をすぐに実体験として行動・交流の場を開催。
- ・手話では、簡単な単語からコミュニケーションの出来る会話へ。聴覚障がい者の協力で、習った手話を使った企画の開催を準備中。



他団体と協同することで発見したこと

プロ的な存在感があり、視聴覚障がい者の立場から生活や支援の視点などを解り易く共に勉強することができた。将来的にも更に充実した中身をお互いに考え協同することで、地域で役に立てる存在として発展させていきたい。

活動において生協が担った具体的な役割

- 連続5回ガイドヘルプ・手話学習講習会の実施。
- 学んだ内容の実体験の場として障がい者との行動・交流会の実施。
- スタッフとして個々の実施に向けた宣伝と準備。

成果として評価できる点

- ガイドヘルプ学習講習会参加者延べ 85名
- ガイドヘルプ受講者と視覚障がい者との実体験 23名
- 手話学習講習会参加者延べ 112名
- 学習・講習会では、講師が常に障がい者の日常や行動を熟知し、又、受講者の個々の状況(例、まったく初めて接する人、少しは解る人など)を把握した上で対応された。スタッフとして参加する中での気づきであり今後の参考となった。
- 今回改めて気が付いた所もあり、今後に生かしていきたい。登録ボランティアの研修の場にもなった。5回の連続は日程的に無理があるが、毎年の2回では身に付きにくい。初歩編・実践編などに分けて企画の組み立てを考えるのもひとつの方法と考えている。

生活協同組合おおさかパルコープ 鶴見福祉センター運営委員会

活動名 | 鶴見福祉センターと地域住民の絆でつなぐたまり場作り

活動のきっかけ

地域住民が気軽に集える「たまり場」としてパル鶴見福祉センターが開設して6年目を迎え、13町会とヘルスコープおおさかとの連携で、地域の集いの場として健康体操や麻雀など5つのグループが楽しんでいる。少しずつ輪が広がってきている。今後も安心して住み続けたい街づくりの一環として更なる発展を目指す。

活動内容概要

高齢者、子どもなど地域の人々が気軽に楽しく参加し、笑顔でおしゃべりが広がる場としてお楽しみ企画とコラボした食事会を4回開催した(将来的には昼食会に繋がる事を意識している)。又、広く福祉センターや活動を知ってもらう為に鶴見区の広報紙(4回)地元榎本地域の広報誌(4回)などに広告を掲載した。併せて広告チラシ1万枚を作製し地域の拠点などにも置かせて頂いた。



協同した団体

- 榎本地域活動協議会13町会
- 生活協同組合ヘルスコープおおさか



他団体と協同することで発見したこと

運営委員会の中で意見を出し合う事で、各団体の強みを発揮し共有する事ができた。ヘルスコープおおさかは高齢者の健康志向の活動や動向など、13町会は地域で活動している様々な情報など、パルコープは若年層の関心ごとなどを出し合い協力することで、広く多くの方が集う場を提供する事ができた。

活動において生協が担った具体的な役割

食事の内容、メニュー、試作・調理に多くの人が関わった。案内チラシや広告チラシなどの立案や作成を受け持った。

成果として評価できる点

- 夏休みお楽しみ企画、おしゃべりマジック・割り箸鉄砲作りと食事会(参加69名・要員18名)
- 敬老の日の集い、落語と食事会(参加51名・要員16名)
- 子どもと一緒にクリスマス会と食事会、腹話術・マジック(参加43名・要員14名)
- 新年お楽しみ食事会と詩吟(参加36名・要員19名)
- 3月にはひな祭りと食事会を予定しましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為中止。

福祉センターや活動紹介を広報紙・地域の通信紙・社協のチラシなどに記載することで、広く宣伝することができ、様々な活動に参加が増えたり、サロンで麻雀を楽しむ方も増えたり広報の効果はおおいに上がり、知らせる事の大切さを再認識した。

生活協同組合とくしま生協

活動名 | 福島の子ども保養プロジェクト

活動のきっかけ

福島県生活協同組合連合会から、「たくさんの子どもたちやその保護者をケアすること」「幼児期から9歳までしか成長することのできない大脳辺縁系は、屋外で遊ぶことや自然から受ける刺激が大切なこと」そのためには、震災の年に生まれた子どもが満10歳を迎える2021年3月までは継続させることが必要との話を聞き、とくしま生協で取り組みを検討し実施するに至った。

今回3回目となるが、福島の子どもたちと保護者のみなさんをお招きし、楽しく、明るく、元気で思いっきり遊び、「全員笑顔いっぱい」を目指して取り組んだ。

毎回参加者からは、「このような企画を継続してほしい」「福島のことを忘れずに気にしてくれていることがとても嬉しく思う」などの声も寄せられている。

協同した団体

- 福島県生活協同組合連合会
- フードバンクとくしま
- 徳島健康生活協同組合
- 公益財団法人徳島県勤労者福祉ネットワーク

活動内容概要

福島県生活協同組合連合会を通じて募集いただき、7/23(火)～7/25(木) 2泊3日、7家族21名の親子を招待した。

【実施要項】

7/23(火) 福島空港⇒伊丹空港⇒徳島県三好市：妖怪屋敷、祖谷かずら橋、びわの滝

7/24(水) ラフティング体験(徳島県三好市)⇒阿波踊り会館(阿波踊り体験)⇒ありがとうパーティー(阿波弁+福島弁クイズ、寄せ張りづくり、ゆるキャラ等)

7/25(木) 鳴門公園(エスカヒル、渦の道)⇒伊丹空港⇒福島空港



他団体と協同することで発見したこと

フードバンクとくしま、公益財団法人徳島県勤労者福祉ネットワークでは、日頃から子どもと関わる機会が多く交流会の進行や雰囲気づくり、楽しくなる工夫や演出について積極的に協力してくださった。徳島健康生活協同組合、労働者福祉協議会(フードバンク、勤労者福祉ネットワークが所属している)との協同組合間の連携も少しずつ前進していたため、積極的に協力を得ることができた。

また、各団体との関係性の向上とお互いの参加や要請、共有する場も増えている。

活動において生協が担った具体的な役割

他団体からの協力はあったが、とくしま生協が主体となって事務局として機能することが必要だった。また、基本的に組合員からの募金で運用としているため、組合員への呼びかけを行いながら進めた。関係する行政にはサンプル等の提供をお願いし、子どもたちへのプレゼントとして使用させていただいた。

部分的ではあるが、このような取り組みを継続していることを知ってもらえる機会になったように思う。

成果として評価できる点

台風の影響で前日までラフティングは中止だったが、何とか当日は行うことができた。ただし増水により流れが速く通常のコースの4倍の距離となったため(コースそのものが変更となり体験時間も約2倍以上となっていた)、例年よりも楽しいコースになったように思う。親子でのふれ合いだけでなくみんなで楽しくチームで協力し助け合っていたように感じた。また、妖怪屋敷とかずら橋では、大人子どもといったことだけではなく、大人同士、子ども同士でも、様々な感情と表情があり、自分らしさが思いっきり表現されたように思う。阿波踊りの体験についても予想以上に親子で楽しんでいただき、今回も表彰されたお子さんもおられた。

親子でふれあうこと、楽しく明るく元気で笑顔を目指していたが、大きな声を出すことで自分たちの気持ちを無意識に表現することが、心のリフレッシュへときっと繋がったのではないかと感じている。今後の企画についても、できるだけ大きな声で気持ちを表現できるようなプログラムを取り入れながら、親子でのふれ合いも大切にすることを目標にしたいと思っている。

認定NPO法人 ぽっかぽかランナースズ

活動名 | 対面式買い物カートの改善及び展開事業

活動のきっかけ

次男に障がいがあり、車いすを押しながらの買い物が大変で、買い物と一緒に行けなくなっていたところ、アメリカで広がっている対面式買い物カート「キャロラインズカート」を知った。Facebookで「日本にもあったらいいのに…」とつぶやいたところ、コープこうべがキャロラインズカート購入を検討してくれたが、大きすぎて日本のスーパーには使えない物だった。

コープこうべがスーパーメイトに委託して試作品を作ってください、試乗したところ、問題点も多く改造が必要となった。

活動内容概要

試作品は車いすを反対側から押す持ち手を付けて、買い物カゴをフックに付ける物だった。後ろ向きに進むので、後輪が動かないため、小回りが効きにくいという欠点があった。買い物カゴもフックに掛けるため、買い物が済んで品物が入った買い物カゴの取り外しが容易でなかった。小回りが効くように4輪の車いすから6輪の車いすへの変更を検討したが、買い物カゴを置くタイプにするのが難しく、6輪の台車の上にいすを載せる方向で改造を進めた。

協同した団体

- 生活協同組合コープこうべ
- 株式会社スーパーメイト



SUPERMATE



他団体と協同することで発見したこと

ぽっかぽかランナースズは買い物をする立場で、コープこうべは買い物客へのサービスを提供する立場で、スーパーメイトはいろいろなタイプの買い物カートを開発・製造している立場で改造案を練ることができた。

活動において生協が担った具体的な役割

制作メーカーのスーパーメイトとの調整と打ち合わせの場の提供。

試作品を店舗に設置し、自由に試乗してもらい、利用者（特に高齢者や認知症の家族）の声をまとめる。

店舗での試乗を進めるためにマスコミに向けての広報やコープこうべ提供の読売放送「奥様情報BOX」出演、総代通信に掲載。

成果として評価できる点

- 台車タイプにすることで、前輪後輪とも動くことで小回りがきくようになった。
- 買い物カゴを置くタイプに変更できた。
- 前からも後からも押せることを維持できた。
- 買い物カゴを複数置けるようにできた。

フードバンクしまね「あったか元気便」

活動名 | 学校給食のない時期に食と福祉情報を届ける「あったか元気便」

活動のきっかけ

2011年より、JA・生協・社協等の多主体連携をめざした研修会を重ねてきた。この研修会の中で、豊島子どもWAKWAKネットワークの栗林知絵子氏、フードバンク山梨の米山けい子氏、社会活動家の湯浅誠氏の講演や視察をきっかけとして活動に至った。

活動内容概要

上記8団体の連携と協同によるフードバンク事業。生活困窮者支援の中で、特に「子どもの貧困」に焦点をあて、小学校と中学校の協力を得て就学援助世帯を中心に、構成団体が取り組むフードドライブによるお米やレトルト食品、お菓子や乾麺などと寄付金から購入する食品を学校の長期休みに届け、また我々が運営する「子ども食堂」や公民館が主催する「寺子屋(学習支援)」への紹介・案内を行い、当該家庭の孤立防止と子どもの健やかな成長を目的として事業展開している。

直近の春休み対応では、110世帯(8割が母子家庭)へ約1.3トンの食品等を約70名のパッキングボランティアの手で箱詰めし、ボランティアの手書きのメッセージを同封し、宅配業者に渡している。

協同した団体

- 松江保健生活協同組合
- 松江市立古志原公民館
- 島根県農業協同組合(本店)
- 島根県農業協同組合
(くにびき地区本部)
- 生活協同組合しまね
- グリーンコープ生活協同組合島根
- 島根県労働者福祉協議会
- 地域つながりセンター



他団体と協同することで発見したこと

それぞれの強みを発揮する連携スタイルとなっている。特に、JAや生協では理事等の役員はもとより、組合員への周知活動が盛んで食品や寄付金集めの大きな力となっている。また、JAには米の検査や管理に取り組んでいただき、品質のいい食品が提供できている。

活動において生協が担った具体的な役割

生協職員が事務局長を務め、情報収集や対外的な交渉の調整役として力を発揮し、また社協出身者として地域福祉のスキルや地域状況の情報提供にも寄与している。

成果として評価できる点

国や地方自治体で進められる生活困窮者対策では、相談・支援の窓口設置で順調に動きつつある一方、制度の周知不足やアウトリーチ型の状況把握が出来ていない中、支援を必要とする方々の見落としが発生していると思われる。母子家庭の母親の中には貧しいけれど人のお世話にならず、自分の力でやっていくというかたくなな気持ちを垣間見ることも多いが、何度も案内を受ける中で、また我々の広報誌を見ることや新聞に取り上げられる様子によって、利用してみようという気持ちに変化していくケースも散見されている。

今年度は、夏休みに中学校1校、冬休みに小学校1校が増え、利用世帯も83世帯から110世帯に増えたため、パッキングボランティアも約70名から約100名程度になり、地元大学の教職員と学生、高校生、社会福祉士会所属のソーシャルワーカー、民生委員、社協職員など協力者の輪が広がりつつある。

フードバンク奈良

活動名 | フードバンク活動

活動のきっかけ

奈良県生協連や奈良県社会福祉協議会が事務局を担い、2017年8月に奈良こども食堂ネットワークが設立された。ならコープは個別にこども食堂にお米などの食材提供していたこともあり、ネットワークの支援団体として、当初から各団体は深く関与していた。ネットワークが設立されたが、多くのこども食堂が食材の入手や活動資金に悩んでいるなどの課題が明らかになった。

全国的に広がりつつあるフードバンクが奈良県内には無く、その必要性を感じたこども食堂関係者が中心となり、食、福祉、環境の分野で活動するメンバーが集まり、フードバンクの設立においても奈良県生協連とならコープの協力を得た。貧困の現場を見聞きする一方、たくさんの食品が十分に食べられるのに捨てられている現実があり、それらの食品を必要とする人に提供する仕組みを奈良県内につくことを目指している。

協同した団体

- 奈良県生活協同組合連合会
- 市民生活協同組合ならコープ

活動内容概要

- ・フードバンク活動をより充実したものとするため、2019年10月に特定非営利活動法人フードバンク奈良の設立総会を開催し、県からは2020年1月に認証を得た。
- ・自治体主催の環境イベント等で食品ロス削減についての啓発活動を行った。
- ・活動を知ってもらうために広報誌を2回発行し、会員・賛助会員、登録団体のほか、協力いただいた行政・団体等にも郵送した。また、ホームページを刷新し、企業や団体からの食品提供の申し出や、必要とする団体がアクセスしやすい仕組みづくりに取り組んでいる。
- ・「コープふれあいセンター六条」の一角をフードバンク奈良の活動拠点として無償で借り、食品の保管・活動場所としている。月に2回、食品の仕分け・提供日を設け、集まった食品を整理し、必要とする団体に提供している。
- ・セミナーや講演会、勉強会において、当団体の活動について報告した。
- ・フードドライブ活動を自治体や各団体でも実施していただけるよう働きかけを行った。活動を行いやすいよう、チラシやのぼり等のグッズを貸し出すとともに、ノウハウを提供した。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため県内の小中高校が一斉休校になったことに伴い、奈良県内の教育委員会より使用しなくなった学校給食の食材を県内の福祉施設やこども食堂などに提供するための橋渡しをした。



他団体と協同することで発見したこと

- 様々な食品ロスの実態を知るとともに、有効に活用できることも感じた。
- 店舗で定期的にフードドライブを実施していただくようになり、当団体だけではできない活動の広がりを得ることができた。

活動において生協が担った具体的な役割

- 食品の保管と活動場所の提供。
- 共同購入のキャンセル品や、店舗で袋が破損した米の提供。
- 各店でフードドライブを定期的に実施。
- 広報誌で食品ロス解消についての啓発や、当団体の活動を紹介。
- 組合員を対象に開催している学習会や政策検討会議にて、活動を報告。
- 子どもの未来アクションアンバサダー講習会で報告。

成果として評価できる点

- 食品を提供する登録団体は、2018年度末は51団体だったが、2020年3月17日現在では81団体となった。
- 食品の譲受量は、2018年度は4.6トンだったが、2019年度（4月1日～3月17日現在）は約11.6トンと2倍以上になった。
- フードドライブを実施いただいた団体数は、自治体は7、その他の団体は11となった。

ボランティア団体「ハートハース」

活動名 | 安心をはぐくむ居場所づくり

活動のきっかけ

ひきこもり問題を何とかしたいと考えていた「ハートハース」と「奈良市社会福祉協議会」が出会い、実現できていなかった「ひきこもり支援」をスタートさせる機運が生まれた。

活動内容概要

ひきこもりから脱した若者と社会を緩く繋ぐ若者の居場所「あなたのまんま」を月2回開催し、若者が自らのコミュニケーション能力を高めていく力を育む。様々な体験を共有することで自尊心を高めて、本人の真の自立を促進する。就労だけが「ひきこもり」の出口ではないが、元気を回復した若者には「就労体験」から始めるサポート付きの「中間的就労」を経て、ならコープにおける「パートナー雇用」への道が開かれている。

若者の支援だけでなく、ひきこもりの子どもを持つ親に対しては、月1回の「そのまんまで親の会」を開催している。午前中はそれぞれの想いを語っていただくことに重点を置き、午後からは交流分析の手法を用いてコミュニケーションの仕方を変えていくという取り組みを行っている。

協同した団体

- 奈良市社会福祉協議会
- 市民生活協同組合ならコープ
- 帝塚山大学心のケアセンター



他団体と協同することで発見したこと

他団体との協働は大変だが、全くタイプが違う団体が協働することによって、単独で事業を行っているよりも展開の広がりがスムーズかつ大きいという事を実感している。民間団体の場合行政とのコネクトは非常に困難な事が多いが、行政との結びつきが強い社会福祉協議会との協働することで関係各課との連携がスムーズに取れたことは事業遂行の大きな助けとなった。

活動において生協が担った具体的な役割

ならコープには、若者の就労に多大なる協力をいただいた。通常では考えられない週1回からの就労やサポート付き就労に対しても、柔軟な対応をいただいた。対人関係が苦手だったり、低すぎる自尊心を持っている、LGBTの傾向がある等、個々の若者の状況を理解いただき、4回の体験後はならコープから時給500円と交通費を支給していただけたという中間的就労に近い形の試みは、障害者手帳や精神福祉手帳を持っていない当事者にとって、対価を得ながら一般的就労を目指すことが出来るという就労支援を実現する大きな力となった。このようなシステムをつくるために時間を割き、納得のいくまで話し合いの場を持ってくださったことに感謝している。

成果として評価できる点

若者の居場所「あなたのまんま」の取り組みは当初2人の参加から始まったが、現在の登録者は18人を数える。昨年度と比較しても、関わる人の数が増加傾向にある。

2018年度は居場所が151人、親の会が79人、ひきこもりサポーターの参加は344人（いずれも年間）であったが、本年度は、居場所が204人、親の会が68人（3月はコロナのため参加者が減少）、サポーター参加は355人で、特に若者の参加が大幅に増加している。参加人数が増加したことによって、プログラムも自然と増え、それを話し合いで決めていくこと、強制的な参加を求めないというところが大きな安心感につながっているようである。

奄美医療生活協同組合

活動名 | 鹿児島県での相互扶助理念にもとづく「生活支援活動」支援プロジェクト

活動のきっかけ

離島では、住民の高齢化や単身世帯化、貧困化が進んでいる。このことに対して『住民が住民の為に住民による』相互扶助理念にもとづく生活支援活動が不可欠であるが、離島での講師や先進事例の報告者を招いての企画を持つ場合、日程や交通費等で多くの困難性を抱えており、参加者の交通費負担も課題である。助成を受けた学習交流会を企画することで、地域福祉についての見識を広げ、先進事例を学ぶことで、奄美大島に自主的自発的な生活支援活動を広げていきたい。

活動内容概要

2019年12月10日（火）奄美観光ホテルにて学習交流会を開催し、大阪教育大学新崎国広教授を招き「孤立を生まない地域づくり」について基調講演をいただいた。講演後コープかごしまの「くらしの助け合い活動」、鹿屋市社会福祉協議会の「ドライブサロン支え合い活動」、龍郷町秋名集落の「地域ささえあい活動」について実践報告を踏まえ、講師及び報告者計4名によるシンポジウムを行った。



協同した団体

- 奄美市社会福祉協議会
- 瀬戸内町社会福祉協議会
- 奄美市地域包括支援センター
- 龍郷町地域包括支援センター
- 大和村地域包括支援センター
- 宇検村地域包括支援センター
- JAあまみ大島事業本部女性部
- NPO法人鹿児島県介護支援専門員協議会
奄美大島・喜界島支部
- 生活協同組合コープかごしま
- 奄美医療生活協同組合
- 鹿児島県生活協同組合連合会
- 鹿児島県社会福祉協議会
- 鹿児島県
- 鹿児島純心女子大学



他団体と協同することで発見したこと

2019年度ははじめての取り組みで、一からのスタートだった。実行委員会へ参加いただいた団体は、地域住民主体のお互い様活動に各々取り組んでおり、横のつながりや取り組み情報の共有などを求めていることがよくわかった。

活動において生協が担った具体的な役割

実行委員会結成に向け、奄美大島本島全域の団体訪問と参加呼びかけから開始し、実行委員会開催日程の調整、会資料準備当の実務を担った。企画に向けて、講師航空券手配と打ち合わせ、報告者との調整、チラシ作成、資料作成と印刷等の実務を担った。

企画後のまとめの実行委員会開催、講演資料作成を行った。

成果として評価できる点

- 2019年度の学習交流会は奄美大島という単位（行政単位を越える）176名も参加を得、地域福祉を考えあう機会、貴重な実践経験を共有化する機会となった。行政や様々な団体に、『今までにない』企画という認識をつくることができた。
- 2019年度の活動で、事務局団体である奄美医療生協やコープかごしまに対し、『生活支援』というテーマの認知度や存在感を高める事ができた。奄美医療生協や奄美島内の生協の活動の活性化につながった。

公益社団法人 フードバンクかながわ

活動名 「もったいない」を「分かち合い」～「ありがとう」へ

活動のきっかけ

神奈川県内で貧困対策活動ができないか? をテーマに、各団体の責任者クラスがあつまり、2015年から検討を行った。

2015年9月に①生活困窮者の現状把握と支援活動の実践を学ぶ②マイクロクレジット研究③フードバンク研究 を目的として「マイクロクレジット研究会」を設置。

2016年11月より、神奈川県内の協同組合、労働福祉団体、市民福祉団体11団体によるフードバンクの検討会を経て、2017年4月に(仮称)フードバンクかながわ設立準備会を12団体21名にて結成。2018年4月より一般社団法人フードバンクかながわとして活動開始。同年10月全国のフードバンクではじめて公益認定を受け、公益社団法人となる。

活動内容概要

- ・食料の収集・配布を通じた、生活困窮者等への支援事業
- ・食品ロスの削減、フードバンク等に係る調査研究・啓発・政策提言を目的とする事業
- ・地域社会における市民の相互扶助を増進することを目的とする事業
- ・災害等の被災者に対する食料・生活物資等の支援事業
- ・勤労意欲ある生活困窮者等の就労支援を目的とする事業



協同した団体

- 神奈川県労働者福祉協議会
- かながわ勤労者ボランティアネットワーク
- 神奈川県労働者共済生活協同組合
- 中央労働金庫神奈川県本部
- 公益財団法人横浜YMCA
- 公益財団法人かながわ生き生き市民基金
- 特定非営利活動法人参加型システム研究所
- 神奈川県農業協同組合中央会
- 神奈川県生活協同組合連合会
- 生活協同組合パルシステム神奈川
ゆめコープ
- 生活クラブ生活協同組合(神奈川)
- 生活協同組合ユーコープ

他団体と協同することで発見したこと

今回協同した団体は、生協のほか農協、労働福祉関係団体、市民団体(公益財団)の12団体であったが、例えば労働福祉関係団体は行政関係とのパイプが太く、そのほか協同組合関係は、食品関連事業者への協力要請、また市民団体は地域の支援団体や子ども食堂などとの連携推進が得意であった。各団体の特色を活かして準備や活動をすすめることにより、目標以上にフードバンク活動が広がった。

活動において生協が担った具体的な役割

- 余剰食品等の提供
- 学習会・体験研修(学習+ボランティア体験)への参加、ボランティアの募集
- フードドライブ品の回収拠点の提供
- 事務局の派遣(出向)
- 倉庫兼事務所の賃貸(賃料約1/5)

成果として評価できる点

◆目標を上回った事項

- 寄贈頂いた食品(重量) 目標=63.0トン
⇒ 3/20現在=95.5トン
- 提供した食品(重量) 目標=62.0トン
⇒ 3/20現在=89.0トン
- 寄贈団体数(社) 目標=40社
⇒ 3/20現在=79社(団体)
- 提供団体数(登録数) 目標=110団体
⇒ 3/20現在=157団体

※上記項目は、2018年度(1年目)の2倍強と急増している。

社会福祉法人 いぶき福祉会

活動名 | 新しい協働ステーションにおけるコミュニティガーデンづくり

活動のきっかけ

1995年のいぶき福祉会設立の時から、いぶき福祉会の地域活動やコープぎふの平和活動などでも相互に活動し合う関係があった。

2019年からはエリア委員会やおしゃべり会を開催するなど、組織だけでなく組合員さんとの交流も増えている。その中で、コープステーションのすぐ近くにいぶきの事業所が開設し、そこを地域に開かれた場にしたいいぶき福祉会と、ステーションを組合員さんの交流の場にしたいコープぎふとで、地域の拠点づくりを一緒にできないかという話が始まった。すぐに実現できることではないかもしれないが、そのきっかけとしてガーデンづくりを考えることにした。

協同した団体

- 社会福祉法人いぶき福祉会
- 生活協同組合コープぎふ



活動内容概要

いぶき福祉会の事業所「サテライトいぶき」の敷地に、花壇(コミュニティガーデン)を作るための学習会とワークショップを行った。講師には、東京や浜松でコミュニティガーデン作りに取り組むフラワーセンター若草の代表・木村智子さんにお願いした。

- ・7月21日：コミュニティガーデンづくりのコンセプトやガーデンを通してかなえたい願いを出し合う学習会を開いた。地域の方々が自分たちの手で作り楽しみ、結果として地域のコミュニティが育まれていることをみんなで描く時間になった。ガーデニングに関心のある地域住民の方の参加もあった。
- ・10月12日：第1回目のワークショップを開催。コミュニティガーデンを作る現地に11人があつまって、地面に線を引いたり、どんな花木を植えてみるかスケッチを描いたりした。その後、花壇で使うレンガや苗の手配、次回のワークショップまでに地面を掘り返してみる計画を立てた。
- ・11月4日：花壇作りを行った。午前中は地面を深く掘り、配合混合した土を作り入れ替え、植物が自分たちの力で育つことができる花壇づくりに汗を流した。いぶき福祉会、コープぎふ、子どもふくむ地域の方など15人の参加があった。昼食の懇談を挟んで、午後は手分けしての植栽。管理が簡単で、綺麗に見える植え方などのアドバイスももらいながら取り組んだ。



他団体と協同することで発見したこと

25年近い実績があるため地域に深く根ざしている意識はある反面、障がい者への理解はまだ課題が多いと思っていた。コープぎふも地域への浸透には課題を感じていると知り、地域の人とは大きく流動しているということ意識するきっかけになった。地域で違う繋がり方をもっている団体が協働することで、新たな網の目ができていくことを学んだ。私たちが構えてしまいがちな声かけも、エリア委員の方が積極的に実践され、個別配送や共同購入のネットワークは、私たちでは想像できない広がり、私たちが持っている場とコンテンツの力との相乗効果は大きいと改めて発見した。

活動において生協が担った具体的な役割

プロジェクトへの関わりをエリア委員会などでも知恵を出し合ってもらった。組合員の方々にも個配を通じて参加のよびかけ、参加者の受付や調整などもコープぎふの支所で調整をしていただいた。当日も積極的に参加いただき、コープの地域への浸透が何となく心強く思った。

成果として評価できる点

猛暑を避け、秋に植栽をしたため、実際のガーデニングのなかで人が動き始める春以降に、より人が集まる機会を作りたいと思っている。

広がりの数値：コミュニティガーデンの活動の発信

- コープぎふの配布物 1.8万枚を2回
→参加者は3回で24名。
- いぶき福祉会の会報誌への掲載
→1500部×2回。
- いぶき福祉会のSNSへの掲載
→170日で約1500のリーチ。
1日の最大では295リーチ。

神戸市職員有志

活動名 | 学習支援

活動のきっかけ

代表が神戸市職員として、福祉（生活保護）、子育て支援（待機児童解消）、企業誘致など様々な分野の業務を担当してきた中で、福祉・子育て支援の分野において社会の矛盾が是正されないまま放置され、負の連鎖が様々な問題を起こしているという感覚を、現場を通して感じていた。行政の限界を感じていた中、2017年4月に神戸市長が神戸市職員による職務外の地域貢献活動を促進する制度「地域貢献応援制度」を全国に先駆けて創設したことを契機に、当団体を設立し無料の学習支援を始めた。

学習支援を選んだ理由は、代表自身が教育投資に厳しい家庭に育ったことに加え、神戸市での生活保護業務を通じて、自立には「施し」だけでなく「学び」が必要であるという実体験（生活保護世帯が連鎖する一方、生活保護を受けずに頑張るシングルマザーの子の方が真っ当に育っている実態など、政策の矛盾を目の当たりにしたこと）が活動を始める大きなきっかけである。

コープこうべとの協同は、神戸市の東のエリア、コープこうべのサービス付き高齢者住宅「コープは〜とらんどハイム本山」の地域交流室をお借りできることになったことがきっかけで、広報や事務局業務の一部も担っていただけることとなった（2018年8月開校）。

活動内容概要

毎週日曜の午後、神戸市職員を中心とした事務局スタッフと学生ボランティアを主体とした講師で無料の学習支援を、学習塾や家庭教師を利用できていない中学生を対象に実施。

あわせて、当団体が呼びかけて設立した神戸学習支援協議会において、共同研修会の開催などを通じて、教育の質向上と量的拡大を推進し、市内全域における教育格差の解消を目指している。



協同した団体

- 生活協同組合コープこうべ
- 神戸市
- 神戸市社会福祉協議会
- 東京大学先端科学技術研究センター
- learning for all
- 神戸学習支援協議会
ESD推進ネットひょうご
- 無料塾シンポジウム
全国大会

他団体と協同することで発見したこと

コープこうべからの提案は、市内全中学校区での無料学習支援の提供を目指す当団体にとって会場確保がまず課題になるため、今後の増設可能性を切り開くものだった。さらにコープこうべとの連携が地域での広報機会や当助成金の獲得にもつながり、2019年度に事業を拡大し軌道に乗せる上で多大なご貢献を受けたものと実感している。

2019年12月にはドンクとの連携も始まり、地元企業との連携が重要との認識を深めた当団体としては、2020年度の重要な取組テーマの一つに、企業との連携拡大を掲げている。

活動において生協が担った具体的な役割

- 本山校の会場（コープは〜とらんどハイム本山 1階地域交流室）提供（年間50回）
- 本山校の運営協力（広報誌での受講生募集、事務局業務等）
- 湯浅誠氏講演会の開催協力（社内SNSでの参加者募集、当日事務局運営他）

成果として評価できる点

- 本山校の開講回数
毎週日曜約50回（2018年8月開校のため2019年度は初の通年実施）
- 本山校の受講生数
2018年度8人、2019年度10人
- コープこうべ広報誌きょうどうへの掲載（2019年4月号）→2020年5月号掲載準備中
- 本山校における夢ゼミの事業開始（2020年1月）→2020年度より定期開催へ
- 湯浅誠氏講演会 参加者約80人

生活協同組合 おかやまコープ

活動名 | 平成30年西日本豪雨被災地支援活動 ～社協との連携を軸とした他団体との協同～

活動のきっかけ

おかやまコープは西日本豪雨で被害が甚大だった倉敷市の災害ボランティアセンターへ職員を派遣し、運営スタッフとして活動を支援した。当初は手探り状態だったが、社協やNPOにアドバイスをもらいながら支援物資のお届けやニーズ調査などを実施し、次第に炊き出しや地域イベントに協同参加するようになった。2か月間の支援活動を終えた後も、さまざまな支援を通じて社協やNPOとの関わりは深まり、多様化する被災者ニーズに対して支援を継続するために、助成を活用することとした。

協同した団体

- 倉敷市社会福祉協議会
- 倉敷市緑化協会・いのりんジャパン
- 真備町写真洗浄@あらいぐま岡山

活動内容概要

サロンや写真洗浄はおかやまコープの組合員が中心となり、社協やNPOと協同開催している。当初、建設型仮設住宅の集会所や近くの分館などで開催していたが、社協の要請で、市外のみなし仮設住宅に住む被災者が周辺に多くいるコープの店舗で開催することにした。12月にはいわて生協ひつみ隊が来岡され、岩手県の伝統的な鍋料理「ひつみ」を振る舞ってくださった。写真洗浄は組合員宅を会場とし、特別な技術が無くてもだれにでもできる取り組みとして参加が広がった。

KIZUNAフェスタ・七夕まつりの大型地域イベントは市やNPOと協同して、職員ボランティア中心に参加した。食事提供に加え、宅配・共済のお知らせブースで外れなしガラポン（景品はお菓子）を実施し、多くの親子連れで一番の賑わいになった。その他、お買い物に困っている方が宅配利用をはじめたり、共済金の請求忘れ発見にもつながった。

倉敷市・総社市の建設型仮設住宅の入居者に、年末年始を少しでも温かく過ごしていただけるよう各社協と連携し「温まるコープ商品詰合せ」セットを作り、組合員のメッセージを添えてお届けした。



他団体と協同することで発見したこと

豊富な経験や知識により、被災者ニーズに沿ったアドバイスがもらえたり、各種イベントやサロン情報をいち早く掴むことができた。

社協の持つネットワークにより、今までにない手法で広報することができた。また、地域住民や他団体と協同のきっかけを作っていただき、地域でのつながりが広がった。

活動において生協が担った具体的な役割

主催や共催、協力など役割はさまざまだったが、他団体と意見交換しながら企画を運営することができた。

成果として評価できる点

- サロン17回開催、847名の参加があった。
- 写真洗浄35回開催、430名の参加があった。
- KIZUNAフェスタ・七夕まつりの大型地域イベントは2回開催、2,059名の参加があった。
- 倉敷市・総社市の建設型仮設住宅の入居者へ220セットの商品をお届けした。
- 市の復興だよりや地域ライングループへの情報掲載など新しいお知らせができた。

東京ほくと医療生活協同組合

活動名 | なんでも相談会

活動のきっかけ

医師のひとことがきっかけとなる。「他区でもやっている相談会、北区でもできないか」

活動内容概要

北区に届出をだし、王子駅前三角公園でテントを張るオープンスタイルな相談会、毎回、医師、看護師、介護、MSW、弁護士、人権団体、労組、地域の生協組合員らが参加して相談活動を行っている。相談会のお知らせビラを事前に、場所を変えて各地域に配布しているが、数か月前にまいたビラを頼りに相談の電話が来ることもある。

協同した団体

- 北区労働組合連合会
- 東京土建一般労働組合北支部
- 北区生活と健康を守る会



他団体と協同することで発見したこと

相談に来られる方で多いのは相続問題だが、背景には病気、介護、経営など様々な悩みが隠れている。例として、「高齢の父親の経営するラーメン屋を相続したが、閉店したい。その父は認知症がでて、介護施設のことも心配…」というように、相談の背景に別の相談が隠れていることも多く、一人の専門家がわからない分野も団体をこえ、臨機応変に相談員の組み合わせを変えて対応することで、相談会もレベルアップしている。

活動において生協が担った具体的な役割

専門家である、医療従事者による医療・介護相談。テント内でのお茶コーナーの運営、地域への事前ビラまき、会場の設営。

成果として評価できる点

開始以来6年目を迎え、開催数41回、相談に来られた方は350名を越えた。

相談員など、実行委員会団体と個人の賛同者の6年間の延べ参加者数は、東京ほくと生協の職員304人（医師42人、看護師37人、介護士38人、医療ソーシャルワーカー52人、事務135人）東京ほくと地域の組合員87人、北法律弁護士37人、北区労連43人、東京土建北支部94人、生活と健康を守る会47人、民商21人、新婦人8人、年金者組合12人、ハーモニカクラブ180人、中国人の通訳の仲間22人で合計855名。また、障がい者の就労相談を北区社会福祉協議会と協力した事例もあり（50代男性Iさんは言語障害があり、就労希望もあるが、何度も面接で落ちてしまうという相談。社協に紹介し、訓練センターに通い、その間に障がい者手帳を取得、結果就職も決まった）。くらしと仕事相談センターの相談員と、その後も意見交換する中で共感も生まれた。

特定非営利活動法人 キッズドア

活動名 | みらい塾

活動のきっかけ

- ・ コープみらいの社会貢献の一つとして貧困家庭の学習支援に取り組みたいということで、キッズドアに相談があり、2015年の夏休みにプレ企画として、地域での夏休み工作教室を実施した。
- ・ 会場とおやつ提供をコープみらいが担当し、教室運営はキッズドアが行うという合意のもと2015年9月からみらい塾がスタートした。

協同した団体

- 生活協同組合コープみらい
- フェローオーケストラ
- 子どもほっとネット in なかの



活動内容概要

会場：コープみらいプラザ新中野会議室

日時：月2回（基本的に第2、第4土曜日） 午後2時～4時

対象：小学4年生～中学3年生

定員：30名程度

対象世帯の事例：ひとり親家庭、生活保護や就学援助を受けている家庭、何らかの理由で所得が低い家庭、児童養護施設や母子生活支援施設に入っている家庭、多子家庭など。



他団体と協同することで発見したこと

- コープみらいの協力で会場の確保が安定し、子どもたちの安心感につながっている。また、ブロック委員会のご協力で、学習会だけでできないイベントも実施できている。
- フェローオーケストラは、「音楽の力で人と人をつなぎ、人を輝かせること」をめざして活動しているオーケストラ。一緒に企画・活動することで、普段の学習会だけでは体験できない音楽の世界に触れることができ、子どもたちの体験を広げることができた。
- 「子どもほっとネット in なかの」に参加することで、地元の団体と情報交換ができ、中野区内での活動の幅を広げることができた。地元の状況が以前よりも見えるようになった。

活動において生協が担った具体的な役割

- 広い会場を用意いただけたことで、学習会、面談、合唱の練習、さらにはフルオーケストラの演奏会まで実施できた。
- 休憩時間に食べるお菓子を用意いただいた。
- フェローオーケストラ夏のコンサートでは、会場設営などの準備もしていただいた。
- クリスマス会の企画や、工作・ケーキなどのワークショップの準備、会場設営をしていただいた。当日もブロック委員などたくさんの組合員にお手伝いいただいた。
- みらい塾の活動をブロック委員などに周知していただいているため、有志の方から文房具などのご寄付や募金をいただいた。

成果として評価できる点

<みらい塾実施成果概要>

- 活動参加児童生徒数：延べ313名
- 参加児童、生徒出席率：63.5%
- 受験生志望校合格者数：2名（100%）
- 活動参加ボランティア数：延べ228名
- 活動回数：26回
- 子どもたちからの声
 - －勉強をすこし好きになって、テスト前はきちんと勉強するようになった。（中1男子）
 - －勉強は好きじゃないけど、テストでわからないことも聞けてよかった。（小4女子）
 - －自分のことを聞いてくれた。（中2男子）
- 保護者からの声
 - －家では学習が進まないの、勉強できる場があって良かった。
 - －先生が優しく教えてくれて勉強が好きになった。居場所になっている。信じられてやる気が出ている。
 - －学校や家庭だけでは勉強の面倒を見きれないので、助かっている。宿題などで、親が子どもに教えられない場合（難しい、説明しにくい、厳しくなったりイライラしてしまう）など、「これは、みらい塾の先生に教わっておいで」と言える場所なので、とてもありがたい。

杷木復興支援ベース

活動名 | 被災地域での、地域復興支援ならびに地域活性化活動

活動のきっかけ

「かたらんね杷木」は、被災者の集う場所として始めた。集うことにより相談がしやすい環境作りや、その相談内容に対応できるよう、多くの団体が支援できる体制ができている。

現在も多くの被災者さんが、時間と共に変わりゆく状況の中で、多くの問題にぶつかっている現状。問題は個人レベルで違っているため、「かたらんね杷木」をもっと地域に浸透させ、また関係する団体も広げることに力を注いでいく。

協同した団体

- エフコープ生活協同組合
- 朝倉市社会福祉協議会
- 朝倉市ふるさと課

活動内容概要

「かたらんね杷木」

- ・人の集う場作り。被災者や行政、支援者、地元の方々が集い相談から活動まで柔軟に対応。
- ・お茶やコーヒーの提供（かたらんねcafé）。支援者による提供。
- ・教室実施。ヨガ等の先生による教室を実施。
- ・情報提供。行政や弁護士会、地域の情報を細やかに提供。
- ・イベントを開催。餅つきやぜんざいの振る舞い、豆まきなど皆参加型で実施。



他団体と協同することで発見したこと

- エフコープの「くらしの学習サポーター」の存在。
- イベント時の食事提供方法の発見（分量・調理時間など）
- 活動を通じての学生の成長（学びの場になっている事の実感）

成果として評価できる点

- 被災参加者の増加（最大人数40人）
- 支援者の増加（参加高校：5校、大学：5校）
※県外参加校：2校
- 地域の幼稚園・小学生の参加。

活動において生協が担った具体的な役割

- 月ごとの企画打合せへの参画
- 歓談時の菓子やお茶の提供
- 昼食の食材の手配
- 運営スタッフとしての参画（1～6名/回）

2

テーマ



**命を守り、
その人らしい生き方が
できるようにする**



一般社団法人 ウェルフェア

活動名 | 男の料理教室・認知症予防教室(料理)

活動のきっかけ

コープみらいが松戸市の「高齢者の元気応援キャンペーン」協賛企業・団体となっていることから、同市の高齢者支援課を介して、松戸市地域包括支援センターへとつながった。

同センターでは、料理をテーマとした認知症予防のプログラムを実施するための講師や施設を探していたことからコープみらいに働きかけがあり、以後協同の取り組みに向けた協議を重ねてきた。

協同した団体

- 生活協同組合コープみらい
- 松戸市明第2西地域包括支援センター
- 松戸市馬橋地域包括支援センター

活動内容概要

高齢者が“料理”をテーマにしたプログラムに、グループで取り組むことを通して、認知症予防をはじめ、食生活の改善・社会参加となるようなきっかけを作ること为目标とした。

<男の料理教室>

独居の男性を中心に参加を呼びかけ、全6回実施。初歩的な料理のスキルや食育についてグループでの学びを通し、簡単な料理や片付けを習慣化することで、食生活の改善や認知症の予防につなげる。

<認知症予防教室>

プログラム実施に先立ち、脳の健康度検査を実施して参加者にプログラム参加を呼びかける。料理をテーマとしたワークショップと調理実習のプログラムを通じて、知的な機能を使う習慣を身につけ、認知症の予防につなげる。ウォーキングのワークショップも併せて、全16回で実施。



他団体と協同することで発見したこと

地域包括支援センターは日常生活圏域ごとにおかれており、地域ごとに様々な課題を有しています。課題が共通していることもあり、1つのセンターでは開催することが難しくても共催することで可能になると感じた。

活動において生協が担った具体的な役割

コープみらいはプログラム実施のために、調理施設（コーププラザ東葛）、講師（地域で活動している方）、コープみらいスタッフや食育サポーターなどを提供した。また、プログラムに使用する食材としてコープ商品の提供、グループ化を応援する制度の情報提供などを行った。

成果として評価できる点

男の料理教室・認知症予防教室共に、体調不良等を理由に毎回参加人数に差があったが、積極的に参加されていた。

プログラム修了後には自主化がなされるように、プログラム展開時から自主化を推進するための周知を行い、3グループ（男の料理教室1グループ、認知症予防教室2グループ）が自主化され、コープみらいを会場に定期的に活動をしていくこととなった。

一般社団法人 やまなし空と風-Discovery Of Life

活動名 | ほくとProof of Lifeプロジェクト(人それぞれの生きる証をみつける活動)

活動のきっかけ

約30年にわたり、疾患ならびに障がいの啓発に関する各種の企画・実施・運営を行ってきた前職の経験を基に、少子高齢化社会の中で、疾患・障がいの有無・年齢等に関わらず、一人ひとりがかけがえのない存在であることに気づく活動が必要だと思い、早期退職して当法人を設立。これまで仕事を通して知り合った医師、学者、ジャーナリスト、大学、医療・福祉関係諸団体の関係者たちと、代表の遠縁の古民家がある山梨県北杜市で、一昨年からこのプロジェクトを企画し活動を開始した。

多くの方々から活動の継続を望む声をいただき、私どもも活動の効果が実感でき、プロジェクトの拡がりも見えてきた。

協同した団体

- 生活協同組合ユーコープ やまなし県本部
- 一般社団法人国際未来学校
- 医療法人社団家族の森

活動内容概要

活動の中心として、毎月1回の「健康よろずカフェ」を開催、企画運営を行った。内容は、医療関係者等を講師としてお招きし、生老病死を皆で考える「生老病死の講話会」、病気を知って予防する「ちょっと健康塾」、参加者・講師・ゲスト・スタッフが交流をはかる「健康談義カフェ」、多彩なゲストが毎回異なったアクティビティを行う「お楽しみ会」のプログラムで構成した。

また、一般社団法人国際未来学校から毎月、障がいのある子ども達を前日から招き、当日はカフェのお手伝いをしてもらうことで子ども達に対してのソーシャルスキルトレーニングを、参加者に対しては障がいに対する誤解・偏見の解消などに取り組んだ。



他団体と協同することで発見したこと

今年度は特に、一般社団法人国際未来学校、医療法人社団家族の森との協同の中で多くの発見があった。具体的には、障がいのある子ども達に対するコミュニケーション、ソーシャルスキルなどのトレーニング方法の中に、世代間交流、地域間交流をはじめ、様々なコミュニケーション構築に反映・応用できる方法を発見できた。また、各自治体が行っている地域包括ケアシステムがこのままでは実のある実行が厳しいこと、私たちのような健康よろずカフェの活動が、自治体の行う地域包括ケアシステムと連携することで、役に立てる可能性があることが発見でき、その方法について様々な議論、テストプランを行うことができた。

活動において生協が担った具体的な役割

幟、会場・駐車場の案内看板を提供いただき助かった。健康よろずカフェの開催告知をフォローいただいたり、プログラムの企画に対する提言、助言をいただき、県民性・地域性を熟知している地元だからこそのアドバイスをプログラムに活かすことができた。

成果として評価できる点

参加者は毎回平均して20名程度。中には、生きている価値を見出せず死にたいと思いながら暮らしていた女性が、健康よろずカフェに参加することを通して生きる意味に気づいたり、戦争の体験を負い目に感じて生活していた参加者が、発達障がい児との交流により自身の生きがいを見出すなどの変化があらわれている。

ゲストとして手伝ってくれた学生団体やコミュニケーションプロデューサーは、自分たちの活動に誇りと自信を感じ、積極的にこのプロジェクトに意見や提案などを行っている。

講師の医療関係者は、地域医療のあり方が、健康よろずカフェの目的と重なるところが多々あると評価してくださり、地域コミュニティのあり方や、それを支える医療体制のあり方を議論することができた。議論の中で、カフェで行っているプログラムを活かしたチームビルディングを企画し、玉川大学の協力を得て実験としてアクティビティプログラムを行った。その結果、多職種連携における地域包括ケアシステムの目標設定、課題抽出ができ、川崎市多摩区と連携して、年間で様々なプログラムを実施することになった。これらに対しカフェに参加しているジャーナリスト達が問題意識を持つようになり、現在、番組として企画している。

上記の事例は一部だが、今後も、これらの課題に対して様々な活動を行っていきたい。

生活協同組合パルシステム千葉

活動名 | 元気な高齢者が軸となる、パルシステム千葉多世代交流サロンでの地域コミュニティづくり

活動のきっかけ

地域でのくらし課題は、パルシステム千葉の組合員だけでは解決できず、地域の人たちと一緒に地域の多世代に役立つ取り組みを展開しようと方針化した。まずは高齢世代に向けた介護予防から取り組み始めた。

協同した団体

- 習志野市東習志野高齢者相談センター
- ワーカーズコープちば
- 社会福祉法人八千代美香会
- ブレメン習志野

活動内容概要

- ・「パル習志野笑学校」を中心とする介護予防の取り組み。
- ・地域交流プラザ・ブレメン習志野「ブレメンフェスタ」子どもワークショップ準備と実施。
- ・子ども学習支援を夏休み・冬休みに実施。春休みは新型コロナウイルス感染対策で急遽中止。



他団体と協同することで発見したこと

組合員が地域で活動参加することで、地域づくりに参加していくきっかけとなる。

連携団体と地域の課題について協議し、取り組み内容を決めるので、組合員活動として取り組むよりもはるかに視野が広がり、参加する人も広がる。

組合員活動の枠を超えて、身近な課題に気軽に取り組み、継続することができる。

活動において生協が担った具体的な役割

連携した活動のきっかけ作り。

地域の団体と団体、人と人を出会わせる役割。特にパルシステム千葉組合員が、住んでいる地域で他団体と連携した取り組みに参加し、積極的に推進していく機会、場をつくった。

成果として評価できる点

介護予防取り組み：年度内参加者延べ人数 636人。

ブレメンフェスタ：小学生参加延べ12人、

サポートボランティア大人延べ16人。

子ども学習支援：小学生参加延べ30人、

サポートボランティア大人延べ29人。



津山アルツハイマーデー実行委員会

活動名 | 津山 世界アルツハイマーデー認知症理解・啓発活動

活動のきっかけ

多くの方に認知症について理解してもらう為にTシャツの作成等を検討している中で、津山市地域包括支援センターだけの考えではなく、多方面の団体のアイデアを取り入れた取り組みができればいいのではと感じるようになった。各方面からの認知症に関する方々のアイデアを認知症の理解啓発、支援に活かしていこうとの思いを抱いた。

活動内容概要

- ・認知症サポーター養成講座の開催。
(認知症を理解して啓発活動を行っていく為に、まず協同する団体に認知症サポーター養成講座を開催)
- ・理解啓発の為にTシャツ、のぼり旗、チラシ作成し、Tシャツを津山市内の商店や銀行等各団体に購入してもらえるように働きかける。あわせて認知症についても伝える。
- ・認知症カフェ（コープ林田店、市立図書館）
- ・認知症に関するパネル展示（市役所市民ホール、市立図書館等）
- ・認知症に関する映画鑑賞会を行い若い世代にも認知症に関心を持ってもらい、認知症の理解が深まるように働きかける。
- ・オレンジウォーク（オレンジ色の物を身に付け、津山市内を歩く）で一般市民の方への認知症支援PRを行う。

協同した団体

- おかやまコープ美作エリア
- 津山市民生児童委員連合協議会
- 津山市認知症のひとと家族の会
- 臼井茶屋
- 加茂タクシー
- みまさか認知症疾患医療センター
- 日本認知症グループホーム協会
- 認知症対応型通所介護事業所
- 認知症キャラバン・メイト
- 津山信用金庫
- 美作大学生生活科学部
社会福祉学科
- 津山市社会福祉協議会
- 津山市社会福祉協議会
津山市地域包括支援センター



他団体と協同することで発見したこと

イベントを実施するときに、新たな年齢層に周知したことで、参加者が増加した。ライトアップや展示などで他団体の協力を得ることができたので、啓発活動がより広まったと感じた。他団体が参加することで、多くの意見が出る一方で、一つの形に集約することが難しかった。

活動において生協が担った具体的な役割

認知症サポーター養成講座（会場：コープ林田）の企画と受講者を募集し、身近で安心なコープ林田店で認知症カフェの開催と認知症パネル展示を実施した。

映画鑑賞会、オレンジウォークなどのイベントの企画と開催、コープ林田及び宅配担当者がオレンジ色の物を着用し認知症支援PRを行なった。同じ津山市で生活する住民同士でお互いを助け合うため、認知症を理解し、支援することを積極的に伝える役割を担ってもらった。

成果として評価できる点

認知症の映画上映会に200名の参加者があり、小学生の姿も数多くあった。また、参加者から認知症の方に暖かいメッセージをいただいた。認知症に関する展示をコープ、図書館、市役所で実施し、多くの方に見ていただいた。オレンジウォークでは、高校生や大学生、一般市民と様々な年齢層が130名参加してくださった。その中で、一体感が生まれ「認知症になっても安心して生活できる津山を目指しましょう!」といった掛け声で周知することができた。

支援の輪が広がったことで、高校からスライドショー実施について協力の手が上がり、認知症の取り組みをまとめたスライドショーには50人の参加があった。認知症カフェを図書館とコープで実施し、それぞれ30名程の参加があり、「こんな風に認知症について話せる場所があればいい。」と好評を得た。

東京保健生活協同組合

活動名 | 地域の医療保健の駆け込み寺

活動のきっかけ

2018年度から文京区社協との協同で、大塚診療所の空きスペースにて「大塚だんだんひろば」を開設し、組合員と地域の他団体が協同して活動している。その中で、東京健生病院前にある空き店舗を利用し、この地域でも文京区社協と協同して「居場所」づくりを進めることを協議してきた。

文京区社協、町内会、地域の様々なNPO団体など、約10団体で実行委員会を結成。2019年10月オープンを目指し、現在までに10回会議を行い、「居場所」で開催する企画内容や建物の改修について話し合いを進めてきたが、建物の老朽化に伴う耐震補強に想定外の資金が必要であることが分かり、他団体からの投資等を依頼。当初のスケジュールより遅れているが、2020年春のオープンを目指すことで進めている。

東京保健生協としては、この空き店舗を利用して地域の方が集う場所として発展させると共に「地域の医療・介護相談」機能を担っていきたいと考えている。

協同した団体

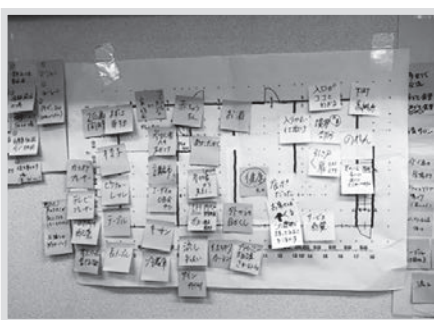
- 文京区社会福祉協議会
- 氷川下町会
- 文京サポート家族会
- 株式会社エーザイ
- 高齢者あんしん相談センター
- NPO法人カーレットジャパン
- The Trading City研究所

活動内容概要

東京保健生協は健康で安心して住み続けられるまちづくりを目指し、運営している病院・診療所・介護保険施設や支部・班で協力しながら健康講座や班活動を開催してきた。現在、地域に居場所をつくり、そこを拠点に様々な健康づくり活動を組合員だけでなく、地域住民も対象に活動を広げていくことが大切であると考えている。

2018年8月より文京区社会福祉協議会が行っている、介護予防と地域の支えあい「かよい〜の」団体登録、活動スタート。定期的に集まり身体を動かすことで、フレイル予防や参加者の交流を深め、また、組合員が文京区フレイル予防リーダーとして地域で活躍し、地域の方を「かよい〜の」につなげている。

2019年10月からは月2回、「医療・なんでも相談」を開始し、地域住民の「困りごと」の相談に乗っている。



他団体と協同することで発見したこと

株式会社エーザイでは、社会貢献を一定の労働時間に組み入れており、地域住民の信頼獲得に努めている。CSVとは、Creating Shared Value の略称のことで、「共通価値の創造」と訳されますが、エーザイのように企業が社会課題等に主体的に取り組み、社会に対して価値を創造していることを知ることができた。当法人との協同では、認知症サポートを行い、課題がある地域住民に対しての活動にも取り組む予定である。

活動において生協が担った具体的な役割

医療生協の強みである、健康づくり活動や介護予防、医療専門職などによる医療相談機能を行うことで住民自らが健康をつくり出すための支援を行うことができた。

成果として評価できる点

- 「かよい〜の」（介護予防・毎週1回実施）の参加者数は延べ670人となっており、地域住民の介護予防の場となっている。
- 「医療・なんでも相談」（月2回実施）では、月4〜5人の地域住民が相談に訪れている。独身の息子と父親の二人暮らしでの老々介護の方や一人暮らしの高齢者の相談が多く、法人の診療所を通じて、支援に至ったケースもあった。
- 日本大学理工学部まちづくり工学科3年生の学生4名が、現地学習会として当活動のワークショップに参加した。地域課題に実践的に取り組み、研究を進めている。
- 約10団体で構成される実行委員会では、2020年春オープンの居場所での運営カレンダーを作成し、具体的な活動に向け準備を進めている。

特定非営利活動法人 月と風と

活動名 | フクフクサイクルプロジェクト

活動のきっかけ

車いすの男性（26歳）の時給が20円だった。日本では8割の服が燃やされていると知った。それを改善できるのはチャリティショップという仕組みだと知ったのがきっかけ。

協同した団体

- 生活協同組合コープこうべ
- NPO法人 FREE HELP
- NPO法人 co.to-hana

活動内容概要

有給店員を1店舗1人（時給900円）と位置づけ、その他の店員はボランティア。服を提供する、ふくるで働く、ふくるで買う。その全てが20円・80%を解決するための寄付・ボランティアになる。

2019年度は90%以上の服をNPO法人FREE HELPより提供してもらい、委託販売という形をとることで、立ち上りを支援してもらった。コープに普段こない層のお客さんをよぼうと、お母さん方の就労支援団体や、児童デイサービスなどと一緒に店員体験やファッションショーを開催した。尼崎のみならず宝塚でもチャリティショップを運営したいという方の立ち上げ支援を行った。



他団体と協同することで発見したこと

コープ自体のブランドイメージがよく、チャリティショップ（寄付）との親和性が高い。組合員さんが興味をもって応援してくれた。

アパレルの専門家（FREE HELP）がいるので、どの時期にどんな服がどれくらい売れるというようなアドバイスをいただいた。

ボランティアミーティングでのファシリテーションをco.to-hanaにお願いしたので、ボランティアさんの高いモチベーションを維持してくれた。

成果として評価できる点

- 年間売上：2,911,050円
- 年間客数：2,685人
- コープ来店者数：四月前年対比144%アップ
- 年間ボランティア参加人数：約100人
- しょうがい者店員への給料支給額：1ヶ月平均32,431円 *平均勤務日数7日（時給900円）

活動において生協が担った具体的な役割

- 売り場を安価で提供。
- 個別宅配にてふくるのチラシを配布。
- コープこうべの理事、組合員さんとの橋渡しや集客。
- ボランティアの募集。

特定非営利活動法人 ほっとプラス

活動名 | 生活保護受給者を対象とした住まいの支援及び定期的な健康相談会の実施

活動のきっかけ

当法人では年間300件の貧困に起因した生活相談、40名の生活保護受給中の方を対象とした住まいの提供を行っている。相談の中には「お金がなくて医療にかかれない」「医療扶助(生活保護)で通院はできるが、薬の効果や医師の説明が良く分からない」等の健康面や医療的な相談も多い。

2019年の正月には入居中の方が肺炎で死去され、定期的な健康に関する相談会の必要性をより感じ、2011年の法人設立以来、連携している医療生協さいたまに本企画を提案させていただいた。

協同した団体

- 医療生協さいたま生活協同組合
- 反貧困ネットワーク埼玉

活動内容概要

- ・当法人で関わっている生活保護受給者への住まいの提供および健康相談会の開催
- ・サロン活動の継続開催および健康相談会の開催
- ・川口駅周辺における夜回り活動の実施
- ・上記の活動の有効性や必要性についての報告会の開催および報告書の作成



他団体と協同することで発見したこと

昨年度までの川口駅での夜回り活動では、医療的なケアや相談までは十分に行うことが出来ていなかったが、今年度の活動を通じ、路上生活を強いられている方への健康相談会(血圧や酸素飽和濃度の測定等)を新たに行い始めた。測定をしてみると総じて血圧の数値が高く、医療的なケアの必要性が高いことに改めて気づかされた。

活動において生協が担った具体的な役割

医療生協さいたま所属の看護師が当法人の活動に同行してくださり、生活困窮状態にある方々への健康面での相談に乗っていただいた。総じて健康状態が悪い方が多いため、通院の促しや服薬における注意点、食事や日常生活における工夫等に関して様々な助言をしてくださった。

また医療生協さいたま主催の研修会や学習会の講師としてこの間計7回当法人のスタッフを派遣し、医療生協さいたまの職員へ、貧困問題への啓発活動にもつながったのではないかと考えている。

成果として評価できる点

看護師による巡回訪問を通じて、今まで当法人だけではケアをすることが出来なかった医療的なケアを行うことができた点が評価できると思う。数値で評価することは難しいが、当法人の入居者の健康面への意識が変わったように思う。

また、これからの医療現場を担う約90名の新人職員に研修を通じて生活困窮者支援の現状と課題を知ってもらえた点も評価できている。次年度以降も新人研修を担当させて頂くことになったため、引き続き啓発活動に勤め、医療と福祉の連携を強化していけたらと思う。

富山県生活協同組合連合会

活動名 | 福島の子ども保養プロジェクト in とやま2019

活動のきっかけ

この間、朝日町とは見守り協定や物資協定を締結しており、取り組み主旨に賛同していただけたため。

協同した団体

- あさひふるさと体験推進協議会
- グリーンツーリズムとやま

活動内容概要

福島県より8家族22名にお越しいたき、朝日町で思い切り自然体験して過ごしていただく。

◇月日 8月2日(金)～4日(日)

◇場所 朝日町内

◇参加者 約80名(内 福島県内の7家族22名、県内生協44名、地元の協力多数)

富山県生協連が企画し、「福島の子ども保養プロジェクト」の一環として、福島の子どもを連れて、今回で13回目となる企画を朝日町で開催した。はじまりの式では歓迎の挨拶をしたのち、福島からの7家族と事務局・スタッフがお互いに自己紹介をし、オリエンテーション。その後、自分だけの宝物「勾玉づくり」を体験し、家族対抗ビーチボールバレー大会では、家族やスタッフで協力し合いチームプレーで楽しんだ。宿への帰り道「快水浴百選」のヒスイ海岸にてヒスイ博士にヒスイの見つけ方を教えてもらい、時々鑑定してもらいながらヒスイを探した。夕食後、交流会でゲームを楽しみ、夜には星空の下で花火をした。

翌日は朝から宮崎漁港で「魚釣り」。「小アジ」「サバ」などたくさん釣り上げ、その後ヒスイ海岸にて海水浴を楽しんだ。昼食に、釣り上げた魚を料理していただき、自分の釣った魚を食べて満足そうだった。午後からヒスイ海岸で拾った石に絵を描く「石ころアート」に挑戦。その後、海水浴と「スイカ割り」で盛り上がった。夕食は福島からの家族とスタッフ、地元の方々も参加して交流し、スタッフが浴衣に、編笠姿で「越中八尾のおわら」の哀愁漂う音色の中、踊り出すとみんなで輪になり踊り盛り上がった。

最終日は自然体験学校「夢創塾」へ。「ジップライン」や「森のブランコ」「大シーソー」「弓矢」で遊び、…原発事故以降、なかなか外でゆっくり遊ぶ機会が少ない子どもたちは、大はしゃぎだった。他にも、紙すきで和紙のハガキ作りやヒスイ海岸の海水から塩づくりを体験し、楽しい森の中での時間だった。

楽しかった3日間の活動を全て終え、「おわりの式」では福島からの7家族22人が一人ずつ3日間の感想を話していただいた。最後に全員で記念撮影し、バスに乗って福島へ、たくさんの思い出を胸に、それぞれの帰路についた。



他団体と協同することで発見したこと

回を重ねるごとに、朝日町でお手伝いしていただく団体やスタッフとの信頼関係が強まり、次回開催に向け、より良い提案が出されるようになった。

活動において生協が担った具体的な役割

- 福島県生協連と応募及びスケジュールの調整
- 朝日町観光協会とプログラムの検討や当日運営
- 当日ボランティア
- 費用負担

成果として評価できる点

- 会員生協スタッフで富山大学生協の学生委員の参加者は女子が多かったが1年生の男子が3名増え、先輩委員がしっかり取り組みの主旨を後輩に伝えていただいた。また、他の地域での活動にも2名が自主的に参加していた。富大を卒業後OBとして1名参加してくれた。

フードバンクちば

活動名 | いのちをつなごう～フードバンクちば・県内生協連携キャンペーン

活動のきっかけ

フードバンクちばは設立以来、県内生協の助成事業等を利用することで、各生協との連携が広がってきたが、各生協との話し合いの中で県生協連も含め県内生協で一斉に取り組むことで生協組合員や市民に対する食品ロス削減や貧困問題の啓発が進むと認識に至ったため。

活動内容概要

- ・キャンペーン期間（2018年9月～11月の3か月間）に、県内の5生協および県生協連とフードバンクちばが連携し、市民（組合員）に呼びかけて5トンを目標に余剰食品を集める活動（フードドライブ）を行う。また、千葉県庁生協、こくみん共済coop（全労済）千葉県本部等もキャンペーンに参加し、県内生協の連携を広げた。
- ・キャンペーンの共通ロゴを作成し、共通チラシ・ポスターや各生協のチラシなどで広報を行った。また、プレスリリース・記者発表などを行い、街頭での宣伝活動も行った。
- ・キックオフ・イベントでは副田一朗さん（認定NPO法人生活困窮・ホームレス自立支援ガンバの会理事長）にご講演をいただいたほか、フードバンクの活動報告、フードバンクの利用団体からの報告をいただき、活動に関心を持っていただくと共に生協と連携したフードドライブの認知度を高めることができた。106人が参加した。イベントの終了後、各生協の役職員・組合員や市民団体など39名が、JR千葉駅前でフードバンク活動についての街頭宣伝活動を行った。
- ・千葉市生活自立・仕事相談センター稲毛など生活困窮者自立支援機関と連携して、集まった食品の回収・仕分け作業などを生活困窮者等の働く場・活動の場と位置付け、中間的就労の場を作った。
- ・集まった食品は、各市役所や社会福祉協議会・生活困窮者自立支援窓口等を通じて、困窮する世帯への緊急一時支援食品として活用した。また、利用者の声をご寄付いただいた方々にフィードバックする取り組みとして、アンケートはがきを作成し送付した。
- ・千葉県内での生協とフードバンクによる食のセーフティネットの持続的な発展の可能性を検討し、次年度以降の取り組みにつなげた。

協同した団体

- 生活クラブ生活協同組合（千葉）
- なのはな生活協同組合
- 生活協同組合パルシステム千葉
- 生活協同組合コープみらい
- 千葉県生活協同組合連合会



他団体と協同することで発見したこと

千葉県では、キャンペーン期間中に台風15号、19号の災害があり、キャンペーン等の活動の中で培った関係を生かし、被災地への食料（水）の支援や、被災地での炊き出しの支援を生協とフードバンクの連携活動として行うことができた。

活動において生協が担った具体的な役割

- コープみらいでは、2店舗（東寺山店、花見川店）に食品回収ボックスを設置し、組合員等から余剰食品を回収したほか、流通過程で破袋等となった米を寄贈した。
- パルシステム千葉は、全5センターで組合員向けのフードドライブ（配達の日帰り便で回収）を行ったほか、のだ中根店で常設のフードドライブを行った。
- 生活クラブ千葉は、全6センターで組合員向けのフードドライブを行った。
- なのはな生協は、組合員向けのフードドライブを行った。
- 県庁生協は、県庁職員向けのフードドライブを行った。
- 千葉県生協連は、キャンペーンの事務局的な役割を担った。

成果として評価できる点

- フードドライブキャンペーンでは、各生協が熱心に取り組み、キックオフ・イベントも含め、昨年の約5.9トンより700kg多い6.6トンの食品を集め、5トンの目標を達成することができた。
- 昨年度同様、アンケートはがきを食品と同送し、食品寄贈に協力した生協組合員等に利用者の声を届けることができた。

松戸市の地域活動を推進する会

活動名 | 住民主体の「通いの場」を活性化し、高齢者の地域活動を応援

活動のきっかけ

都市型介護予防モデル「松戸プロジェクト」に「コープみらい」より活動支援の申し出があり打合せを重ね、コープみらいより提供されるプログラムが「通いの場」活動に有効との合意に至り、共同プロジェクト体制が確立されたもの。

協同した団体

- 生活協同組合コープみらい
千葉県本部

活動内容概要

- ・「通いの場」の拡大に向け「コープみらい」を協力企業・団体の一つとして、介護予防拠点の拡大、多世代の繋がり、高齢者の生きがいづくりに寄与。
- ・コープみらい学習体験プログラム「防災・減災」「食育」「環境」を活用し「通いの場」など居場所づくりを支える地域団体の活動を活性化。
- ・コープみらい学習体験プログラムを「通いの場」に導入しその運営に貢献させると共に、参加者には新鮮な情報と共感を創り上げ、介護予防に貢献。
- ・コープみらい市内拠点施設「コーププラザ東葛」などを活用し、プログラムを総合的に体験いただく。(仮)「見本市」を開催、既存「通いの場」関係者に体得して貰い今後の施設運営に反映。
- ・市内の220を超える高齢者の居場所となる活動団体にも呼び掛け、コープみらい学習体験プログラムの実施と、その開催を通じ新たな「通いの場」団体としての登録に繋げる。
- ・その他、更なる活動推進についてコープみらいと協議を重ねる。



他団体と協同することで発見したこと

- コープみらいの重層的な組織支援とその情報提供。
- 学習体験プログラムを通じ「体験」を行う事で「学ぶ」事からの感動や今後への意欲を実感する機会となり、参加者にとって今後に繋がる体験会が実践できた。
- 「見本市」(5月23日)開催を契機に当日の参加者が各々地域に持ち帰り、自らの活動に取入れコープみらいと協同実施した事例が予想外に多く、体験学習プログラムは地域に受け入れられた事を実感した。

活動において生協が担った具体的な役割

- 「学習体験プログラム」=「見本市」会場の提供(コーププラザ東葛)
- 「食育」「環境」「防災」体験会講師派遣
- 学習会教材の提供
- 「食育」学習会材料提供
- 体験プログラムの進行

成果として評価できる点

- 「学習体験」を通じ「学ぶ」感動と参加者自らの領域(運営の「通いの場」町会、自治会等)で再現する動きが活発化した。
- 「学習体験プログラム」が「通いの場」向けの新たな運営コンテンツとなった。普及に向け「防災」「食育」学習体験プログラムの実施呼掛け冊子を独自に編集し発行した。
- 一般生活者にも関心のある「防災」「食育」をテーマとした学習体験プログラムであった事で、「通いの場」以外からの開催要望が予想外に多く、居場所づくりで活動する町会サロンや防災関係団体からの開催要望が多く出されたことで、情報発信の拡がりを急速に高める事ができた。その結果、「通いの場」活動の紹介機会も増え、認知向上に寄与する事ができた。
- コープみらい千葉県本部との協同企画の推進が、お互いウィンウィンの結果となった事で、相互の信頼性が高まり、今後の相互活動に良い効果をもたらし、今後も引き続き自主財源による学習体験プログラム推進を計画している。

特定非営利活動法人 あなただけの乳がんではなく

活動名 | 乳がん啓発・ピンクリボンセミナー、乳がん検診受診推進

活動のきっかけ

2017年11月、コープ組合員の依頼により、コープかごしま指宿店で乳がん啓発セミナーを実施。

コープかごしま担当者と連携を取り、他店舗での展開を始める。

協同した団体

- 生活協同組合コープかごしま
- 社会医療法人博愛会相良病院

活動内容概要

- ・県内3店舗（しぶし店、かのや店、指宿店）で乳がん啓発ピンクリボンセミナーを開催。
啓発セミナー内容：①講話「乳がん早期発見のためにできること」 ②「乳がん体験者からのメッセージ」（体験談）
③共済・保険の話。
- ・セミナー開催1～2か月後、セミナー実施店舗で乳がん検診車による乳がん検診を実施。
受診者アンケートを実施した。



他団体と協同することで発見したこと

検診受診者アンケートの「乳がん検診を何でお知りになりましたか」という質問に「共同購入のチラシ」と答えた方が1番多く、次いで店頭のポスター、生協スタッフ・活動組合員の順であった。生協との共同で地域への広報が十分にできた。

大隅地区の2店舗で初めて乳がん検診を実施することができた。身近な場所で乳がん専門病院の検診車による検診が受けられることを喜ぶ受診者が多く、都市部から離れている地域での乳がん検診受診の機会を提供する取り組みの必要性を痛感した。

活動において生協が担った具体的な役割

- 啓発セミナー、乳がん検診実施店舗との調整
- 啓発セミナー、乳がん検診広報
- 乳がん検診申し込み受付、申込者名簿作成
- 啓発セミナー、乳がん検診会場提供、準備

成果として評価できる点

啓発セミナーの参加者が募集人員に満たなかったが、初めて乳がん検診を行った2地区で検診申し込みが30名前後あり、指宿地区では募集を上回る申し込みがあった。

【検診者アンケートの結果】

「乳がん検診受診の経験」は、「数年前受けた」「今回が初めての受診」合わせて54%で、定期的に受診していない半数以上の方に受診の機会を提供できたといえる。

「生協店舗での乳がん検診について」74%の方が「毎年開催してほしい」にチェックをし、59%の方が「来年も検診車で受診したい」と答えており、継続を希望する声が多かった。

指宿店では乳がん啓発イベントを乳がん検診当日に行い、乳がん啓発ブースとコープ共済ブースを設けたところ、検診受診者や買い物客が数多く立ち寄ってくださった。

3

テーマ



女性と子どもが 生き生きする



NPO法人 福島SAND-STORY

活動名 | 福島県の子どもの健康づくりのための親子屋外遊びと家庭生活改善プロジェクト

活動のきっかけ

2011年3月に発生した東日本大震災と原発事故がもたらした子どもの屋外活動の制限により、体を動かす機会が減少し、子どもたちの肥満や運動能力の低下が指摘されている。その改善のためには、取り立てて特別な訓練やスポーツなどによるものではなく、ごく日常の遊びや楽しい活動を通して子どもの気持ちを自然に屋外に引き出していくことが重要である。この点において砂場での遊びは幼少期の子どもたちが最も好む遊びであり、様々な心身の発達を無理なく促進していくものとして効果が認められていることから、本活動に取り組むものである。

活動内容概要

- ・良質で安全な福島県棚倉町産の砂を大量に使い、福島市において親子・市民が楽しめるサンドアートイベント「こむこむプラージュ」及び「第5回サンドアートフェスティバル」を開催した。またいわき市での「いわきプラージュ」では、イベント事業サポートとホワイトサンド提供を行った。
- ・イベント会場では、コープふくしまによるホスピタリティ空間を設置して来場者に休息の場を提供するとともに、子育てや食育、健康・生活習慣改善に関するアドバイスをを行った。
- ・福島市内のイベントにおいては、福島大学、福島学院大学、福島聖母短期大学の3大学から、ボランティアの学生が多数参加し、プレーリーダーとして活躍した。
- ・イベントで用いた良質な砂を保育所・幼稚園・小学校に提供し、指導者を対象に研修を開催。保育・教育における砂の活動の重要性を広めた。
- ・活動の成果の検証と周知を行なうため、「第4回 福島“砂”シンポジウム2019 in ふくしま」を開催した。

協同した団体

- 生活協同組合コープふくしま
- NPO法人いわき鳴き砂を守る会
- 福島市こども政策課



他団体と協同することで発見したこと

- 地域や組織の活動目的の違いはあっても、子どもの健康や育ちという重要なテーマにおいては、それぞれの組織の特長を生かした多彩な連携ができることを改めて学ぶことができた。
- 他団体がそれぞれに関係を持つ人々や団体との新たなつながりが生まれた。
- 団体組織の運営方法について、他団体から新たな知見を得ることができた。

活動において生協が担った具体的な役割

会場におけるホスピタリティ空間を設置していただくことにより、来場者に休憩場所として休んでいただくことができ、そのときに子育てについて話したり、アドバイスを行なったりすることができた。また、イベント後に保育所等への訪問や聞き取りなどをし、その際に砂場環境整備のアドバイスや食育への提案なども行なっていた。生協との連携によって、NPO法人だけではできない、きめ細かい活動や対応が可能となった。

成果として評価できる点

- 「こむこむプラージュ」：屋外に棚倉町産“茶色い砂”の巨大砂場、館内1階にぎわい広場にホワイトサンドを配したサンドプールを設置した。親子・大学生ボランティア・鑑賞者を含め約1300名が参加。ホスピタリティコーナーとしてコープふくしまのコーナーを設置し、食育や子育ての相談、特に母親への寄り添いを展開した。
- ボランティアの大学生を対象に基本的なサンドアート技術を体得できる研修を実施し、プレーリーダーとして関わってもらった。また、「砂の遊びとアートの力」による取り組みは、震災前の取り戻しに留まらない意義を持つ「人づくり」「町づくり」「故郷づくり」になっていくことを伝えた。
- 日常的な環境整備事業として、使用した良質で砂遊びに適切な棚倉産の砂を福島市立ふくしま中央認定こども園に寄贈した。
- 「第4回福島“砂”シンポジウム」を福島市チェンバ大町にて開催した。
- いわき市JRいわき駅前多目的広場にて「プラージュ2019 in いわき」を協働開催し、来場者、鑑賞者を含めて約1,000名の参加があった。
- 福島市「四季の里公園」にて「第5回サンドアートフェスティバル」を開催。来場者及び鑑賞者を含めて約2,000名が参加した。

NPO法人 みやっこサポート

活動名 | 食で子ども達を守り、地域の未来を守るプロジェクト！

活動のきっかけ

当法人が地域福祉への貢献を目的に相談支援や地域交流、子ども・子育て支援を行ってきたことを、コープこうべの方々が知り、今後更に増える高齢者、地域からのニーズ、社会問題に取り組むには地域における連携、特に食を通じた支援や学びが必要であると意見が一致し、協同での活動を進めた。

協同した団体

- 生活協同組合コープこうべ 第2地区活動本部
- 協同購入センター西宮
- 労協センター事業団 西宮事業所

活動内容概要

当法人主催、他の団体との協働で、『みやっこ食堂』（こども&おとなの地域食堂）を、毎週金曜日にレンタルスペースを借り開催。そして、夏休みに不安定になる子ども達の食生活への支援として（親が仕事等に対応しきれずに不摂生な食生活となり体調を崩す子どもが少なくないため）、『みやっこ食堂夏ランチ』を平日に開催。

更には、「自分の体を自分で守れる大人を目指す！」をテーマに『食学』を開催し、自分の食生活の見直しから始め、野菜の種付け、収穫・調理体験から「食の安全、安心」「育てる・調理する・食べる」ことの大切さを、子ども達に学んでもらう。



他団体と協同することで発見したこと

食事の提供に関して、食材の提供、調理、栄養指導、衛生管理指導など、それぞれの団体の得意分野を担い、それぞれの長所を活動に生かすことで、自法人だけで行うよりも明らかに充実した活動が実践でき、活動の幅を広げることができることを実感した。

そしてそれぞれの団体が、他の団体の活動手段をみることで、今後社会課題にどう向き合うかを学べる機会ともなった。

活動において生協が担った具体的な役割

毎週金曜日開催の子ども食堂へは、廃棄前商品の食材の無償提供と、食堂への参加を通じて地域交流を行った。

7/24の『食学』においては、「自分の体を自分で守れる大人を目指す！」を目的に、「食の安全、安心」をテーマとした講座を管理栄養士が中心になり開催。まずはBDHQ（食習慣調査表）で、子ども達自身がタブレットを使い自分の食生活を見直すことから始め、栄養を学び、健康のために必要な食生活を見直すことの大切さを学んでもらった。

成果として評価できる点

- こども食堂（毎週金曜日）
年間43回開催。子どものべ1,025名、関わった方24名。
- こども食堂（夏休みランチ）
夏休みの平日に25日開催。子どものべ125名、関わった方9名。
- 食学
5日間開催（7/24・8/9・9/14・10/19・12/14）、
子どものべ34名、関わった方12名。
総合計：子どものべ1,184名、関わった方33名。

あくらす

活動名 | あくらす

活動のきっかけ

コープこうべ安倉店を活動場所として、2階ふれあい広場を利用させて頂くことから始まる。コミュニティ安倉は会長や健康福祉部さんからの依頼で「ふれあい運動会」での手作り品の販売がきっかけとなり、宝塚市社会福祉協議会からは、地域担当、地域コーディネーターからイベント参加や地域会議の参加を提案頂いたことがきっかけとなっている。

活動内容概要

地域の団体の孤立を予防するためのネットワークの形成づくりとして

- ・「あくらすカフェ」コープこうべ安倉店を利用し、来店利用者の方にコーヒー、紅茶、手作りお菓子などを提供し、居場所作りとして寛いだ時間を過ごしていただく。また、孤独、孤立した高齢者にも声をかけ交流を図る。
- ・「ハンドメイドマーケット」地域のハンドメイド作家さん・宝塚地域の障がい者の作業所に出店してもらうことにより、作家、組合員、ワークショップ参加者の方にコープこうべ安倉店への用事を作り、交流を図る。
- ・「ワークショップ」地域の方に講師になっていただき、参加の組合員、ワークショップ参加者の方にハンドメイドの時間を共に楽しんでもらう充実した時間と場を作る。また、ハンドセラピーの資格取得者により、子育て世代から高齢者までのハンドセラピーマッサージを行い疲れや癒しと共にコミュニケーションを図る。

協同した団体

- 生活協同組合コープこうべ 安倉店
- コミュニティ安倉
- 宝塚市社会福祉協議会



他団体と協同することで発見したこと

幅広く関係性を作ることで、様々なネットワークができ、情報共有が可能になり、世代で共有できていなかった必要な地域の課題の洗い出しができ、ニーズとそのニーズをより認識する機会ができたこと。また、ネットワークを通じて、活動内容をより客観的に俯瞰することができた。

活動において生協が担った具体的な役割

- コープの事業所が地域社会の社会貢献の場として開放され、地域との協同、行政との協業といった新たな地域モデルを目指す。
- 行政をはじめ、地元の企業、ボランティア団体、NPOなどと連携できないか協力を要請し、「あくらす」と地域をつなぐ役割を担う。
- 組合員へ活動を広報することで、地域活動への参加・参画促進と地域自治向上。
- 生協利用者に高齢者が多いことから、多世代が交流することで高齢者の活躍の場の創出、自己実現達成へつなげる。

成果として評価できる点

- あくらすカフェ：私たちの世代と高齢者との接点の場所であり、交流の場としてだけでなく、孤独・孤立を防ぐコミュニティ作りの場所ともなっている。認知症サポートにより、スタッフが対応しやすくなった。
- ハンドメイドマーケット：地域の方に店出してもらうことにより、普段接点を持たない人脈を作り、交流をすることができた。
- ワークショップ：子育て世代の母親の限りある自分のための時間を利用したリラックスの場であり、自己実現の場を提供できた。
- あくらすチャリティショップ：3月15日よりチャリティショップの運営を開始。地域との交流を図る場所として活用してもらい、販売と同時に地域の方にも商品を委託販売してもらうことで、商品に触れてもらう機会を作る。また、「作家さんに会える日」を設定し、イベントとして来てもらうことで、オーダーメイドや地域同士の交流も深める場とする。
- 夏休みKIDSイベント：週一回イベントを開催することにより、子どもの健全育成、世代間・多世代交流を行う。子どもの健全育成、世代間交流を行う。また、地域の高齢者のボランティアの「でえくさんず」にサポートしてもらい、多世代交流も行えた。

子育て交流のひろば ほっぺ

活動名 | この子を産んでよかったと思えるように

活動のきっかけ

代表者は以前、三木市の児童館で勤務していたが、児童館に来館する母親たちはひとりひとり異なる悩みを抱えており、より一層きめ細やかなで迅速なサポートが必要だと感じた。そこで、母親たちがいつでも来所でき、ひとりひとりの困りごとに寄り添うことができる居場所づくりを目指し活動を始めた。

協同した団体

- 生活協同組合コープこうべ第4地区
- 青山まちづくり協議会
- 三木市内の中学校・高校

活動内容概要

- ・ひろば、居場所づくり事業
- ・地域の乳幼児親子を中心とした多世代向けイベントの開催
- ・地域の中高生徒や次世代のプレパパママとのかかわり
- ・プレパパママ向けイベント



他団体と協同することで発見したこと

多団体と交流させていただくことにより、多世代での交流を深めることができた。中でも、内部で活動しているときには当たり前となっている今の子育て世代の実情が多世代の方にとってはとても新鮮な意見であることに気づくことができ発信していくことの重要性を感じることができた。また、多団体の方からの貴重なご意見や連携の提案などはとても参考になり、今後地域の子育て世代をみんなで支えていくことに大きな意味があると再確認できた。

成果として評価できる点

シニア世代30名程度、乳幼児親子50組以上、地域団体20名以上にこの活動に参加していただくことができた。数だけでなく、多世代交流の中で、この子を産んでよかったと思える理想の地域社会の場面を見ることができたように思う。

活動において生協が担った具体的な役割

乳幼児を育てている多世代の気持ちを理解していただき、一緒に会議に参加していただくなど常に同じ目線で活動をサポートしていただいている。

活動の趣旨を根本から理解しようとしてくださる丁寧な姿勢にいつも助けられている。

こども食堂北海道ネットワーク

活動名 | 子ども食堂 道内ネットワークの構築

活動のきっかけ

市民の自発的活動として急速に拡大した「子ども食堂」の「安全」「安心」を地域で支えるサポーターとして中間支援組織を立ち上げたが、広い北海道全域を網羅していく「横軸」を創る事で更なる広がりや安心を運営の様々な問題で共感、共有し地域コミュニティーの一つとして認知、信頼される事を願って活動を開始した。

活動内容概要

- ・子ども食堂運営者へのサポート（モノ・ヒト・情報・知恵）～情報発信と問題、課題の相互共有と解決へのヒントを学ぶ機会の定例開催。
- ・支援事業者へ更なる支援強化の依頼活動（ヒト・車両・燃料）と物流対応～応援団の輪を広げるコミュニケーション。
- ・道内各エリア（道北・道東・道南・道央）運営者、運営団体主宰者との交流強化～地方エリア運営者訪問による活動実態を学び他地域への情報発信。
- ・行政連携の抜本的強化（道・各市町村子ども関連部局・地域社協・NPO団体）～定例学習交流会講師としてお招きし、子ども食堂主宰者との接点作り。

協同した団体

- 北海道生活協同組合連合会
- 北海道農業協同組合中央会
- こくみん共済coop北海道推進本部
- 北海道労働金庫営業推進部
- 生活協同組合コープさっぽろ
- 札幌市子ども未来局・札幌市社協
- 北海道保健福祉部



他団体と協同することで発見したこと

- 地域毎の「貧困」「孤食」「子育て」「家族」への支援制度構築の温度差。
- 各協同組合内に於ける協同の理念、協働や地域貢献への歴史を理解し共感する事の大切さ。
- 地域運営者、運営団体からの“協同組合”への大きな期待と関係づくりへの具体的な一歩。
- 公と民とのコミュニケーションが相互に不足している現実～わかりにくくしている現実。
- 協同組合への支持を広げる様々な活動、とりわけ経済活動面での厳しい現実。

活動において生協が担った具体的な役割

- 事務局活動の大切な役割を担う（組織運営・対外的折衝活動・連帯活動への組織派遣等々）。
- 全道生協各組織への「こども食堂」「地域食堂」の活動状況、到達点の報告共有と参画呼びかけ。
- 協同組合間連携（JA・漁協・森連・共済・労金）の現実的な連携の積み上げができた。

成果として評価できる点

- 定例学習交流会および全道交流会を4回開催し、計270名の運営者、支援者、行政の皆さんを繋げる役割を発揮する事ができた。
- 6つの遠隔地の子ども食堂訪問によりそれぞれの地域事情と運営実態を学ぶことができた（釧路150名・足寄40名・帯広芽室30名・中頓別20名・函館80名・旭川40名の子ども達や運営者との交流機会を持つことができた）。
- 社会貢献を社是としている大手事業者様（日本ハムファイターズ、コンサドーレさっぽろ、北海道コカ・コーラボトリング、水産物荷主協会、セブンイレブン、JA中央会）との連携が進んだ。加えて地場事業者様を加えたフードバンク活動を市内フードバンク団体との連携で通算3度実践する事ができた。

常総生活協同組合

活動名 | ゴンタの丘プレイパーク

活動のきっかけ

つくば遊ぼう広場の会に参加する組合員より、ゴンタの丘の解放日を増やし、運営や整備の充実、子育て世代の利用・支援の充実に向けての協同の活動を呼びかけられた。

外遊びの大切さや地域の繋がり、子育て世代への様々支援（食育を含む）などの点で、常総生協の理念と一致する事が多く、協同の活動に至っている。

協同した団体

- 常総生活協同組合
- つくば遊ぼう広場の会

活動内容概要

本活動は、2019年4月から2020年3月までの毎週木曜日、8月、年末年始や雨天の日を除く、計約40日間実施。第1～3木曜日は、地域のサークルや親子連れとコミュニケーションをはかり、教育に関する悩み、子どもとの関わり方、日常生活における子育ての悩みなどを傾聴、対話しながら、その場にいる大人全員で子ども達の外遊び（砂遊び、水遊び、泥遊び、工作など）を見守った。

第4木曜日は、子ども達にもお団子作りや野菜の切り分けなど、食に直接触れる機会を設け、煮炊きを行った。食の大切さや、安心安全な食材と手作りの仕方を伝えるのと同時に、子どもの食への興味、好き嫌いの克服、日常生活上の食の在り方など、食を扱う生協ならではの食育支援となった。また、月に1回程度ではあるが、年頃の近い子どもを持つ親と一緒に食を囲む事で繋がりもでき、家事や育児だけでなく工夫ある暮らしに関する情報交換、情報共有、育児不安や孤独な育児の解消にもつながった。より大人数の受け入れが可能な状況だったため、広報を通じて参加者を増やすことによって充実した活動となった。

ゴンタの丘利用者向けの食育講座として手作り味噌講習会を行い、日本食の大切さ等を広める活動となった。



他団体と協同することで発見したこと

何事においても、プレイパークを利用する人で作っていく、考えるという姿勢が、より充実し継続につながる事に加え、現代において、外遊びの重要性と、子育て世代の親子が自由かつ自己責任において制約なく充分に遊べる場所作りの必要性を感じた。

活動において生協が担った具体的な役割

安定した開催・遊びの見守り番を確保したことや、親子煮炊き会での食の安心安全、食を取り巻く環境の発信、広範囲への広報によるプレイパークの周知のほか、子育て中の悩みや不安が多い子育て世代の親と、子育て経験豊かな幅広い年齢層のボランティアと交流すること。

成果として評価できる点

- 40回に及ぶ毎週のプレイパークの開放により、子育て世代が集う場所として、毎週の様に参加する親子が増えたこと（参加人数：1039人 ボランティア登録：4人→9人）。
- 名称、場所は移転するものの、自治体が参画することになったこと ※2020年4月より、つくば市が管理する「流星台プレイパーク」となる。
- 協同団体の後押しもあり、自治体に活動の理解が得られ、引き続き申請登録が許可・活動が継続できること。
- 地域の中で地元密着、地域に貢献できる生協であるとの認識を得られたこと。

特定非営利活動法人 熊本県子ども劇場連絡会

活動名 | みんなで学ぼうみんなであそぼう!～“あそび心”が地域をつなぎ仲間をつくる～

活動のきっかけ

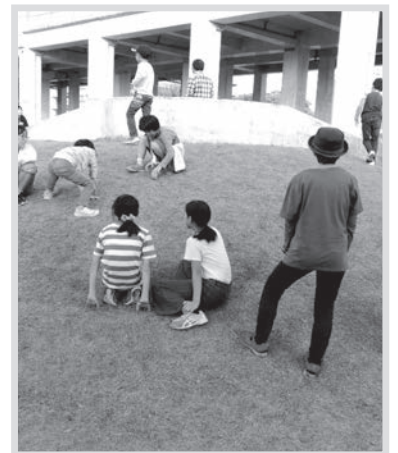
子どもたちの現実、自由に遊ぶ時間や場所、仲間がいない。少しの間でゲームに興じ関わって遊ぶことが少ない。大人も地域のつながりが薄くなってきている。そんな中、関わるあそび（表現あそび）を大人も子どもも一緒になってすることで、日々の暮らしの中に“関わるって面白い!!”を創り出す。この活動が居場所づくりにつながる。

協同した団体

- グリーンコープ生活協同組合くもと
- 親と子を元気にする放課後クラブおかえり!
- うきっ子・たのしい!会

活動内容概要

- ・校区の中にあそびを通してつながり合える居場所を設けることを目標に、そこに関わる人材（あそびのリーダー）を養成する。＜講座とワークショップ3回＞（基礎編・応用編・創造編）⇒＜実践5ヶ所＞⇒＜まとめ会＞
- ・子どもとメディアの学習会 1月25日（土）「子どもにとっての、スマホのホントの問題（とおとなができること）」 講座とワークショップ



他団体と協同することで発見したこと

- お互いに子どもの状況を話せたことが良かった。
- 広報に協力することで、より地域に広報できてよかった。
- これからの協力関係ができた。

活動において生協が担った具体的な役割

- プログラムの内容について協議。
- チラシの配布に協力。
- 生協の地域活動の学習の一環として捉えてもらった。

成果として評価できる点

今の子どもたちにとってあそびがメディア環境の改善に有効! それは、子ども自身のこともあるが、大人も共にあそぶことでメディアの付き合い方を親子で話し合う土壌づくりにとても有効! 何でも話ができる関係だと、スマホを持つかどうかだけでなく、なぜ持たたいのか、どんな使い方がいいのかなど持つまでのプロセスを親子で共有できることが大事! 講座では自分自身の考えを出し合うワークショップのスタイルが受講者には好評だった。

＜あそびの講座4回＞ 参加者延べ108人（1回に27人平均）

参加者は、保育士、先生、学童職員、生協役員、父親、子ども劇場会員。人と人が関わる表現あそびの中で、子どもをどうみるか? 子どもの声をどう聴くか? 子ども自身が主体的に楽しむには? 子どもに正解を求めてはいないか? みんなで一緒にいいのか? など、子ども観、あそび観を問い直す講座だった。また、自分たちでもワークショップの中であそびを創り遊び合うことでの気づきもたくさんあった。

＜実践1回＞ 県内5ヶ所 参加者 子ども80人 大人55人

感想…実践ありきの学びの場は初めてで、まず実践ができたことが良かった。実践の場を踏むことで、自分の中に見えてくるもの、達成感、この仲間とならやれる! とか、すこし成長ができたのかなと思う。

＜子どもとメディアの講座とワークショップ＞ 参加者 31人

スマホの問題点は、身体、心、脳、リテラシーと広がってきている。そんな中子どもが生きていく上で、大切な「一般動詞」とは何かをグループに分かれ自分たちで出してみる。それらが「スマホで代用できるか」「スマホでもいいか」を考える。スマホが子どもに与える問題点だけでなく、じゃ何を大事に考えればいいのか? 一人ひとりに問いかける内容だった。

感想…4月～中学生になる子どもにタブレットを持たせる、その前にこの学習会に参加できてよかった。

特定非営利活動法人 パープルネットさいたま

活動名 | みんながDV被害者サポーター ～つながる居場所～

活動のきっかけ

DVは人生に大きな影響を及ぼし、被害後の困難は多岐にわたる。一人でも多くの人にDVについて知ってもらうとともに、様々な情報やスキルを持ち寄り学んでいくことで、身近な支援者をふやしていきたいという思いから企画した。

協同した団体

◎生活協同組合パルシステム埼玉

活動内容概要

DVや児童虐待をはじめとした暴力の問題について体系的に学び、支援者のあり方について学ぶ「支援者養成基礎講座」と、様々な分野で支援に携わる人々が集い、DVの問題について理解を深める「支援者café」の実施。



他団体と協同することで発見したこと

支援に関わる仕事や活動をしていない人でも、DVの問題について機会があれば学びたい、情報を得たいと思っている人が多くいることがわかった。

自分たちが今活動している現場や生活の場で、DVや虐待、ハラスメントなどの問題があり、色々な活動の場でそれぞれなんとかしたいと思っている人たちがいることに気づいた。つながっていくことで、暴力のない社会・地域を目指していくことができるのではないかと感じた。

活動において生協が担った具体的な役割

- 会員向け広報誌に情報を掲載してもらえたことにより、パルシステム会員から講座の申し込みや参加があり、今までDVの問題は自分とは関係ないと思っていた、興味がなかった人たちとつながり、自分の問題としてとらえてもらうきっかけとなった。
- 安心・安全な会場を提供していただけたことで、安定して講座を開催することができた。

成果として評価できる点

- 「支援者養成基礎講座」参加者（4日間）延べ73名
- 「支援者養成基礎講座」受講者で「支援者café」に参加した人数延べ9名
- 「支援者café」参加者（9日間）延べ57名

「支援者養成基礎講座」の参加者のなかには、講座終了後も「支援者café」に継続して参加し、学びやつながりを深めることができた。

「支援者養成基礎講座」に参加した方や、パルシステム埼玉の紹介で、他の団体とコラボ企画を行った。憲法や他国（スウェーデン）の取り組み等を紹介してもらうことで、DVの問題は、その人らしく生きる権利を奪われたり、侵害される人権の問題なのだと、より深く考えることができた。

また、定期的（毎月第3水曜日）に継続開催したことで、毎回参加してくださる方もおり、支援者の居場所として定着しつつある。

福井県民生活協同組合（ハーツきっず学園）

活動名 | 木育活動を通して子どもの発達を促し、親子のコミュニケーションを促進する

活動のきっかけ

木のおもちゃや遊びを通して木育活動を推進したく、地域で木育活動をされている団体と繋がる事で幅広い活動ができると思った。

協同した団体

- モックイック
- ときなる
- おもちゃハウス

活動内容概要

木のおもちゃであそぼう企画の開催（3回）

- ・木のボールプール、滑り台、木育ワークショップの開催。

グットトイ講座開催（2回）

- ・木のおもちゃの購入（ひろばで活用）。



他団体と協同することで発見したこと

- 木のおもちゃについての知識も広がり、良さを保護者に伝えやすくなった。
- 木のおもちゃに自由に触れて遊べる機会が必要。

活動において生協が担った具体的な役割

- 案内、予約受付、会場準備、片付け、場所の確保
- 広報（チラシ作成、案内）
- 企画運営、人員配置

成果として評価できる点

- グットトイ講座（2回） 28組参加
- 木のおもちゃであそぼう企画（3回） 42組参加

生活協同組合 コープ自然派奈良

活動名 | きゅうしょくカンガループロジェクト (給食を考えるプロジェクト)

活動のきっかけ

これまで年に1~2回、給食に関心のある人が集まる交流会を開催してきた。今回協同する各団体もここに参加し、生協と関係を深めてきたが、その中でこどもたちの体験不足、保護者の知識不足、農家のモチベーション不足などの課題を感じており、各団体と「給食」を核に協同することで、一歩前進したいと考えた。

協同した団体

- 農民運動奈良県連絡会
- 橿原の学校給食を考える会
- 奈良市の給食のおはなし

活動内容概要

- ・「カレーライスを一から作る」プロジェクトでは、種から米・野菜・スパイスを育て、それを使ってカレーを作り、食べるまで、親子で体験する機会をつくった。また、このプロジェクトを通じて、地場の農産物をもっと給食に使ってもらえるよう行政に働きかけた。
※3月に企画した映画上映会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止した。
- ・「田んぼの作業員」プロジェクトでは、女性でも無理なく田んぼの手伝いができる仕組みをつくった。消費者ができる範囲で手伝うことで、持続可能な農業の一助になっている。
- ・「給食のおはなし」プロジェクトでは、給食関係者への取材、また学生と協同して実際に給食献立を考え、調理して、試食交流イベントを開催し、その内容を冊子にまとめた。
※完成した冊子は、3月配布予定だったが、休校により4月配布に延期された(各小学校へは送付済)。



他団体と協同することで発見したこと

農家、JA、料理人、行政職員、給食関係者、学生など、他団体のネットワークを通じて様々な人に協力してもらうことができ、それぞれの得意分野を生かすことで、生協だけでは実現できない幅広い活動を実現できた。生協と他団体では少しずつ視点が違い、そのことが活動の幅や面白味を増すことにつながった。

活動において生協が担った具体的な役割

主に、進捗管理、広報支援、企画運営補助、記録、会計を担当した。

成果として評価できる点

「カレーライスを一から作る」プロジェクト

- 参加者数: 20家族70名
- できあがったカレーライスの自給率は94.2%を達成した。
- すべてを一から作る過程を親子で体験することで、生きる力になっていると感じる。
- プロジェクトの様子は奈良県のテレビ番組でも紹介していただいた。

「田んぼの作業員」プロジェクト

- 参加者数: 10家族13名
- 消費者ができる範囲で手伝うことで、持続可能な農業の一助になっている。

「給食のおはなし」プロジェクト

- 参加者数: 21名(調理実習は18家族27名)
- 奈良市内の小学校に冊子約18000冊配布予定(※3月配布予定が、休校により4月に延期)。
- 冊子の内容は奈良市ホームページでも紹介していただいた。
- 奈良市給食担当課の多大なる協力を得、密接な関係を築くことができた。このことは、今後行政と保護者が協力してより良い給食を実現していくための大きな一歩になると感じている。

特定非営利活動法人 ISC糸島スポーツクラブ

活動名 | コミュニティカフェ寄り合い処プロジェクトST-3

活動のきっかけ

地域の小学生のお母さんから、遊べる場所が少ない、大人も子どもも一緒に遊べるイベントに参加したいなど、地域の居場所作り、地域イベントの開催が必要と感じたこと。

協同した団体

- ISC糸島スポーツクラブ
- グリーンコープ生活協同組合ふくおか
いとしま店
- コミュニティカフェ&デリことこと

活動内容概要

子どもの居場所づくりとして、異世代交流や子どもを対象にした各種イベントを実施。子どもの笑顔の源となる子どもの親世代のレスパイトになるようなリンパケアなども実施した。

「水カンリンバコンサート」自然の旋律を聴き、感性を研ぎ澄ます様な体験広場。

「感じてアフリカンリズム！」打楽器を皆で打ち鳴らし感性と体感リズムのUPを図った。

「藍の葉、たたき染め教室」創作的な工作で、創造性と感性のUPに繋がった。

「懐かしのメロディー歌って元気づくり」皆で合唱する中から元気づくり&仲間づくりを推進。

「みんなで歌おう 歌声カフェ」様々な楽器演奏も体験し親子交流も深まった。

「心も体も楽になるリンパケア」姿勢を正し、健康づくりへの意識向上を図った。

「親子でお月見クッキング」創作料理を通じ親子間&家族間交流を図った。

「寄せ植え教室」寄せ植えを通じ、自然と植物を大切に作る心を育む家族交流。

「音楽で開く♪絵本の世界！」絵本&紙芝居を通じ、親子間&家族間交流を深めた。



他団体と協同することで発見したこと

ISC糸島スポーツクラブはニーズに応える企画力、グリーンコープいとしま店は多くの方に企画をお知らせしていくこと、コミュニティカフェ&デリことことは開催場所の提供と運営力、それぞれ得意とする分野が異なり、一緒に実施することで、足りない部分を補いあって、より形が実施ができた。

様々な資格と特技を持った方々やボランティア精神溢れる献身的な方々、諸団体との交流を通じ、今まで互いに知り得なかった分野のことを、双方で理解が深まりました。又単独で開催するよりも双方の知人・友人への口コミ等で、事業の周知拡散がスムーズにいった。今後も何らかの形で連携してできることを模索しつつ、事業の広域化と内容の拡充を目指していく。

活動において生協が担った具体的な役割

グリーンコープいとしま店は、このプロジェクトのチラシ配布掲示、日々のチラシを見てからの質問などの受け答えを行った。日々の地域の人たちとのやり取りの中で、イベントを必要としているであろう人たちに、情報をこちらから伝えることができた。

成果として評価できる点

2017年～2019年度（3年間）の事業を通じ、実施回数を増加。（7回→8回→13回）継続して参加してくれるリピーターも増えた。

参加者から「チラシをいつもチェックしてるよ」、という期待の声が聞かれ、この事業が地域に浸透していると実感できた。

- 親子ふれあい交流の場を設定し、参加者に大いに満足をいただけたこと。
- グリーンコープ内の「ことこと会場」での開催で、正しく《コミュニティカフェ寄り合い処》の場となったこと。
- 幼児～高齢者まで様々な交流が生まれ、新しいネットワークの創出がみられ、且つ地域の方々からの励ましの言葉が多く聞かれたこと。

特定非営利活動法人 生涯学習サポート兵庫

活動名 | つながる「居場所」のつくり方

活動のきっかけ

姫路青山コープのつどい場の有効利用を考える「四者連絡会議」（コープ、姫路市社会福祉協議会、納屋工房、生涯学習サポート兵庫）をきっかけにコミュニティ食堂ネットワーク等の事業を協同している。今回は「居場所」「子育て」「子ども」というキーワードを核にして活動を実施した。

協同した団体

- 生活協同組合コープこうべ 第7地区活動本部
- 社会福祉法人姫路社会福祉協議会

活動内容概要

- ・つながる「居場所」のつくり方講座：地域の人々が集う「居場所」存在意義や運営のポイントを学ぶ講座。実際に姫路市内で子ども食堂を行うグループから運営までの経緯や運営上の課題点やポイントなどをインタビュー形式でお話しいただいた。2回目には、広報のポイントや実際に集客のためのチラシづくりを実践。新型コロナウイルス感染症の影響で、3回目の講座は中止せざるを得なかったが、受講生に役立つ、居場所作りについてまとめた書籍の紹介、また講師から居場所作りフォーラムの冊子を提供いただき、受講生への配布・説明をWEBと郵送で行った。
- ・おしゃべりカフェ：地域に住む子育て世代が気軽に立ち寄れる場として実施。「ママ」自身が講師となる親子に人気の講座を実施し、まずは「つどい場」を知ってもらう仕掛けを作った。同世代の子を持つ親同士、はじめは緊張もあったが、時間が経つにつれ、互いに悩み事や子どもの様子などをざっくばらんに話す姿が見られた。講座型の「きゃんぱす」と、親子のつどい場として「ちゃのまひろば」を月2回実施した。
- ・移動おしゃべりカフェ：つどい場での実践ノウハウを生かし、周辺地域での子育て世代が立ち寄れる場。2、3月にそれぞれ1回ずつの開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症を懸念し、中止。



他団体と協同することで発見したこと

協同実施も3年目になり、各々が各々の役割を把握した状態で臨むことができ、広報等も必要な人に届くような仕掛けがスムーズに作れた。また、協同だからこそ、自団体だけでは挑戦できないことに挑戦できる機会があるということもわかった。

活動において生協が担った具体的な役割

- 広報：WEBやSNS等を使った広報により、幅広い世代・範囲への広報が行われた。
- 会場提供：講座に参加する人々が居心地よく参加できるように、対象にあった会場セッティングに協力いただいた。
- 人的支援：講座の際には、記録写真をお願いしたり、子どもたちのフォローをお願いしたりと、私たちだけでは足りない部分を補っていただいた。

成果として評価できる点

「おしゃべりカフェ」では、「つどい場」を知らない親子にどう周知すれば良いかと懸念したが、講座を実施してくれるママ講師のネットワークや口コミなどでの協力もあり、毎回定員いっぱいの申し込みがあった。はじめは「興味のある講座」に参加した親子が、回数を重ねるごとに「つどい場」を「居場所」として感じ、講座以外の日にもつどい場に訪れている。

また、各講座を担当した講師とも参加者が直接話をする機会もあり、身近な存在として母親たちが「少し先の未来」を感じることができ、安心感にもつながったように思う。

居場所のつくり方講座は、残念ながら最終回を実施することができなかったが、次年度につながる方法でアプローチを行った。参加者の中には志を持って参加した方も多く、今後の展開が楽しみ。

「コミュニティ食堂ネットワークの会」姫路市内を中心とした子ども食堂などを含むコミュニティ食堂の輪が広がっている。当団体も、姫路市社会福祉協議会、コープ第7地区本部と共に呼びかけ人となり、活動で使える助成金の紹介や当団体が実施している学習支援事業の紹介などを行ったり、ネットワークの広がりをサポートしている。



2019年度 CO・OP共済 地域ささえあい助成 団体交流会 開催報告

2019年度 CO・OP地域 ささえあい助成 団体交流会を、関西と関東の2会場で開催しました。

交流会は助成団体の活動の事例報告や意見交換・交流を行う場として、
助成の活用を検討されている生協や、地域の団体からのご参加も広く呼びかけました。

当日は、2会場合わせて86名に参加いただき、地域と生協の共生をテーマに、
講演や助成団体による活動報告、参加者の交流を目的としたワークショップ等を行いました。

開催日時

- 東京会場：2019年11月21日(水)
13時～16時半
- 岡山会場：2019年11月29日(金)
13時～16時半

開催場所

- 東京会場：日本生活協同組合連合会 コーププラザ 4階会議室3・4
- 岡山会場：生活協同組合おかやまコープ オルガホール



東京会場の様子



岡山会場の様子

開催内容

※所属・役職名は当時のものです。

◇開会挨拶

2会場共通

日本コープ共済生活協同組合連合会 渉外・広報部 国分 聡人 部長

◇基調講演

2会場共通

日本生活協同組合連合会 執行役員 組織推進本部 二村 睦子 本部長

「これからの地域社会と地域ささえあい助成のめざすもの」



◇助成金活用団体による活動報告

東京会場

- ・神戸市職員有志
(協同生協：生活協同組合コープこうべ)
「学習支援」
- ・常総生活協同組合
(協同団体：つくば遊ぼう広場の会)
「常総っ子応援団によるゴントの丘プレイパーク」
- ・おたがいさま水戸
(協同生協：生活協同組合いばらきコープ、
生活協同組合パルシステム茨城 栃木)
「ボランティアによる生活支援活動」

岡山会場

- ・特定非営利活動法人 月と風と
(協同生協：生活協同組合コープこうべ)
「チャリティーショップ ふくる」
- ・『さろん de 志氏我野』運営委員会
(協同生協：生活協同組合コープみえ)
「子供と高齢者のサポート、安らぎ・寛ぎの場提供」
- ・津山アルツハイマーデー実行委員会
(協同生協：生活協同組合おかやまコープ)
「津山アルツハイマーデーに関する取り組みについて」

◇団体交流 (ワークショップ)

2会場共通

- ・ファシリテーター：特定非営利活動法人 日本NPOセンター 吉田 建治 事務局長



◇閉会挨拶

2会場共通

- 日本コープ共済生活協同組合連合会 梶浦 孝弘 執行役員

参加者の声

- どの団体の方も同じご苦労があることを実感しました。
- 活動する中で自団体では解決困難なことが多くあり、それぞれの強みを活かし、弱さをカバーし合うことが出来る、ささえあい助成に感謝します。
- ワークショップでは全くジャンルの違う団体の方との交流なので、お互いの組織や活動に関する質問も多く、時間が足りないくらい有意義でした。



地域ささえあい助成

— 生協と他団体が協同する活動を応援します —

2019年度 募集のお知らせ

CO・OP共済は、「自分の掛金が誰かの役に立つ」という組合員どうしの助け合いの制度です。コープ共済連はCO・OP共済を通じて豊かな社会づくりをめざしています。その活動の一環として、生協と地域のNPOやその他の団体が協同して地域の暮らしを向上させる活動を支援します。全国の生協、NPO、その他の団体の皆さまからの多数のご応募をお待ちしています。

応募期間

2019年1月8日(火)
～1月31日(木)
(当日消印有効)

応募条件

活動テーマ

以下①～③の対象となる活動の
テーマいずれかに該当すること

必須条件

生活協同組合とNPO・ボランティア
団体等が協同した取り組みであること

対象となる活動のテーマ

①「暮らしを守り、暮らしの困りごとの解決に資する」

例 地域住民による高齢者等への生活支援のコーディネート、障がい者の就労支援、震災による避難者へのカウンセリングの取り組みなど

②「命を守り、その人らしい生き方ができるようにする」

例 病気やケガで治療中の方やそのご家族への治療に専念できる環境の提供や、治療中における精神面でのサポートを通して生活の質の向上を目指す取り組み、病気の予防や早期発見を目的とする啓蒙活動など

③「女性と子どもが生き生きする」

例 子育てひろばの開設・運営、出産後の再就職や社会復帰を支援する取り組み、DV被害者からの相談を受け付ける活動など

対象となる活動期間

2019年4月1日～2020年3月31日の間に実施する活動が対象です。

必須条件～生協と他団体の協同～

次の①、②いずれかを必須とします。

- ①生活協同組合以外の団体(NPO法人等)が応募する場合には、活動内容が「生活協同組合と協同して行うもの」である
- ②生活協同組合が応募する場合には、活動内容が「生活協同組合以外の団体と協同して行うもの」である

- 日本国内を主たる活動の場とする生活協同組合、NPO法人、任意団体、市民団体を対象とします。
- 今後設立予定の団体でも構いません。
- 「協同して行う」とは、受注委託の関係ではなく、対平等で企画を一緒に作り、ともに活動する関係をいいます。

〈対象とならない活動〉— 以下、例 —

- 左記の①～③のいずれのテーマにも合致しない活動(環境問題等)
- 生活協同組合同士の活動(100%子会社・生協から派生した団体も含む)
- 生活協同組合単独もしくはNPO法人等の団体単独の活動
- 生活協同組合が、対象となる活動期間中に「CO・OP共済健康づくり支援企画」より助成を受ける活動(応募を予定している場合や、審査中の場合も含みます)
- 生協が企画内容には関与せず、会議室等の場所や食料の提供のみの関係である場合
- 単発のイベントのみでの協同で、イベント終了後の協同の深まりが見受けられない場合

助成内容

助成額は、1事業あたり100万円を上限としますが、審査委員会が認めた活動に限り、それ以上の助成額になることがあります。

審査委員会の判断により、一部減額での助成となる場合もあります。

助成総額は最大2,500万円を予定しています。

●助成の対象となる費用●

- 活動に直接関わる経費（資材費、消耗品購入費、旅費、交通費、印刷製本費など）
- 講師謝礼、指導料など

●助成の対象にならないもの●

- 飲食費、接待費、保険料、人件費（応募団体および協同する団体の職員に対する講師謝礼・指導料等の謝礼金を含みます）
- 助成を受ける事業以外の運営に係る費用
- 営利を目的とする事業
- その他、審査委員会が不適切と判断したもの

選考

助成団体は、外部有識者やコープ共済連関係者などで構成される審査委員会です。

同一団体に同一内容で複数回助成を行う場合は、3年を上限とします。また、審査委員会の判断により、一部減額での助成となる場合もあります。

選考にあたり、事務局からヒアリングさせていただく場合がありますのでご協力ください。

応募スケジュール

- 応募期間：2019年1月8日(火)～1月31日(木)
(当日消印有効)
- 審査委員会：2019年4月
- 結果通知：2019年6月上旬
(第一報はメールで通知します)
- 助成金の振込：2019年7月下旬

活動報告

助成を受ける団体には、所定の報告書をご提出いただきます。その他に、活動の様子について訪問や取材をさせていただく場合、コープ共済連の主催する交流会等での報告をお願いする場合がありますので、ご協力をお願いいたします。

活動報告は、コープ共済連のホームページや冊子等に掲載し、ご紹介させていただきます。

応募方法、提出書類

①応募要項、応募用紙の入手方法

コープ共済連のホームページよりダウンロードいただくか、下記「お問い合わせ先」までメールかFAXにてご請求ください。

URL <http://coopkyosai.coop/about/csr/socialwelfare/2019.html>

※ご請求の際には、団体名、郵便番号、住所、送り主の方の氏名、電話番号を明記してください。

②応募方法

応募にあたっては、応募要項をよくお読みいただき、以下の書類を事務局宛にご送付ください（メール、郵送のみ可）。

応募団体への事務局からの書類受領通知メールをもって、受付完了とします。2019年2月15日頃までに受領通知が届かない場合、受付ができていない可能性がありますので事務局までお問い合わせください。

※FAX、持参による提出は受け付けておりません。

- 応募用紙
- 定款（定款は応募団体がコープ共済連の会員生協である場合、ご提出は不要です。ご不明な場合はご相談ください）
- 見積書など（申請する費用の根拠となる資料）

お問い合わせ先

日本コープ共済生活協同組合連合会

渉外・広報部

地域ささえあい助成事務局宛

TEL 03-6836-1320（平日10:00～17:00）

FAX 03-6836-1321

メール contribution@coopkyosai.coop

応募書類提出先

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-1-13

コープ共済連 渉外・広報部

地域ささえあい助成事務局宛

過去の助成団体活動内容はホームページでご案内しています。

コープ ささえあい 報告集 検索

URL <http://coopkyosai.coop/about/csr/socialwelfare/report.html>

「協同」についてご不明な場合は、日本生協連 地域・コミュニティ担当（03-5778-8135）までご相談ください。

※協同する生協をお探しの場合、生協との調整に時間がかかる場合や、地域の事情により生協をご紹介できない場合もございます。

**CO・OP共済 地域ささえあい助成
2019年度 活動報告集**



発行日：2020年6月

発行元：日本コープ共済生活協同組合連合会
(渉外・広報部)

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-1-13

電話 03-6836-1320



CO・OP共済 地域ささえあい助成
2019年度 活動報告集



この印刷物は
植物油インキを使用しています。



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。